

平成30年度 事業報告書

Purpose

人々の豊かな生活、地域社会、
そして日本を支える「福祉」

私達は「誇り」を持って、
日本の福祉を「創造」し、
「挑戦」します。

社会福祉法人 北海道ハピニス

【目次】

法人総括	2頁 ～ 10頁
1. 法人事務局	10頁 ～ 17頁
2. 障がい者支援施設グリーンハイム	18頁 ～ 28頁
3. 特別養護老人ホーム 和幸園	28頁 ～ 35頁
4. 看護課	36頁 ～ 37頁
5. 栄養課	38頁 ～ 40頁
6. 訓練	41頁 ～ 43頁
7. 相談支援事業所グリーンハイム	44頁 ～ 48頁
8. 通所事業部	49頁
9. 和幸園デイサービスセンター	50頁 ～ 54頁
10. 和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森	55頁 ～ 59頁
11. 和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森	60頁 ～ 63頁
12. 生活介護事業所グリーンハイム (日中一時支援事業所グリーンハイム)	64頁 ～ 69頁
13. 地域事業部	70頁
14. 和幸園指定居宅介護支援事業所	71頁 ～ 75頁
15. 和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所	76頁 ～ 79頁
16. 介護予防センター石山・芸術の森	80頁 ～ 86頁

1. 総括

(1) 経営・運営状況

当法人の基本理念は、「ご利用者の「健やかな生活」の実現のため、心をこめた福祉サービスの提供を全力で実行します。」である。この基本理念を達成することができるのは、職員一人ひとりである。職員一人ひとりがその立場、役割の中で基本理念を理解し、ご利用者、個々の業務に対し向き合い、そして職員同士も真摯、配慮の心を持ち向き合うことが必要不可欠である。

当法人では、5つの視点「利用者視点」、「財務視点」、「人材視点」、「地域視点」、「ガバナンス視点」を法人経営、運営の基礎としている。当法人職員は、ご利用者個々に向き合い、より豊かな生活への支援を実践しているが、我々の業務は、ご利用者の先にある地域福祉、さらにその先の日本の福祉の発展に繋がっている。当法人の存在意義は、ご利用者、地域福祉、そして日本の福祉を支えるという社会の一翼を担っているということである。だからこそ、我々はその誇りと責任をしっかりと持ち、ご利用者と向き合う中で、日本の福祉を創造し、挑戦を続けていきたいと考えている。

さて、2018年度法人事業総括としては、法・制度に基づいた透明性の高い法人運営を基本として、各施設、各事業所、セクションにおいて、職員は真摯に業務に向き合ってくれたと評価している。特に、企業主導型保育所ハピリース保育園の運営、適正な勤怠・労務管理の実践、特別養護老人ホーム和幸福園でのオムツゼロと基本ケアの実践、障がい者支援施設グリーンハイムでの職員定着と職員育成システム、和幸福園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森の開設と機能訓練実績等、専門性が高く、きめ細やかな取り組みについて、他方面での評価をいただくことができた。また、施設におけるインフルエンザの発生に際し、看護係を中心に、提携医療機関である南札幌脳神経外科病院との連携の中で、蔓延、拡大の防止に努め、大事に至らず終息することができた。

地域事業部については、常盤地区に移転し、新たに常盤・芸術の森地区での事業運営を開始することとなり、介護予防センターをはじめ、居宅介護支援事業所、ホームヘルプサービス事業所の地道な活動により、当法人の基盤である石山地区から常盤・芸術の森地区まで法人の運営基盤を拡大することができ始めている。

また、通所事業部については、パワーリハビリ中心の機能訓練に特化した和幸福園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森を開設し、4事業を統括する部署となった。組織として、各々特殊性と専門性の高い通所事業所間の連携を強化し、さらなる専門性の向上と効率的、効果的な職員応援体制の構築に着手することができた。

その一方で、施設内における不適切なケアの発生、各施設、各事業所での経営実績の低下、人材不足と離職者の増加については、課題を残す結果となった。施設内における不適切なケアについては、職員個々の問題ではなく、組織の問題として受け入れ、対応に苦慮している事例に係る情報共有と施設としての対応の明確化を図り、職員が孤立しないことを基本として、介護職員としての理念、支援観の醸成を図るための取り組みを実践している。経営実績の低下の要因となっているものは、施設では入院者、退居者の増加、各事業所では廃止者の増加と新規利用者の確保が十分ではなかった結果によるものである。年度途中に、各拠点課長、係長との経営改善のための検討会を実施し、課題の明確化と対策の実践を徹底するとともに、拠点間の連携強化を再度徹底し、経営実績の改善に取り組んでいる。最後に、介護業界全体の課題ともなっている人材不足と離職者の増加について、当法人では年間50名を超える人材の確保ができていること

は介護職員の待遇改善と職員採用に向けた各種取組みが功を奏している結果と考えている。特に、企業主導型保育所ハピルス保育園の運営は、現在働いている職員の定着、育児と仕事の両立を目指す潜在的な介護人材の確保に繋がっている。しかし、離職率の低下には課題を残しており、組織として職員個々とのコミュニケーションをしっかりと図ること、また、職員個々が専門職として、また当法人の職員としての誇りと責任を持てるような信頼関係の構築に努めていく必要があると考えている。

2. 法人の5つの視点

(1) 利用者の視点

- ・ご利用者、ご家族、職員間の良好な関係作りに向けた接遇の向上に取り組んだ結果、ご利用者、ご家族より良い評価をいただくことができた。
- ・職員の知識、技術の向上へ向けた研修の実施、個別ケアの推進、グループケア、ユニットケアの充実等ご利用者のQOLの向上に向け、専門的視点での関わりを深めた。
- ・「自立支援」の視点を持ち関わることにより、ご利用者の潜在能力を引き出すケアを実践し、和幸園では2018年度もご利用者全員が入居当日よりおむつのない生活を実現することができ、「日中おむつゼロ」を維持することができた。また、常食率85%～90%を維持し、口から食べる楽しみを継続する支援を実践している。
- ・協力医療機関となった南札幌脳神経外科、定山溪病院との連携強化により、ご利用者、ご家族に寄り添った医療の提供を継続することができている。さらに、ご利用者、ご家族の希望に即したターミナルケアを多職種協働により実践している。
- ・厨房業務の委託運営については、「握り寿司」「そば打ち」「バイキング」等、新たに「食の楽しみ」を重視した行事が増加し、専門業者への委託による良い効果が見えている。
- ・法人内研修を他法人事業所も含めた地域の複数事業所での合同研修として実施するとともに、各事業所においても独自に研修を実施した。職域リーダー向け研修の実施により、育成能力の向上を図るよう取り組んだ。
- ・年2回の避難訓練を実施し、各種災害への危機意識を高めるとともに避難時における知識、技術の向上を図った。
- ・不適切なケアが発生しないために、対応に苦慮している事例に係る情報共有と対応の明確化を図り、職員が孤立しないことを基本として、介護職員としての理念、支援観の醸成を図るための研修等を実施している。

(2) 財務視点

① 収入の安定確保

- ・各事業所により、実績の管理、報告を毎月行っていたが、実績低下の要因に対する対応が遅れ、その結果実績低下を招いてしまった。
- ・各拠点課長、係長との経営改善のための検討会を実施し、課題の明確化と対策の実践を徹底するとともに、拠点間の連携強化を再度徹底し、年度途中より経営実績の改善に取り組んでいる。
- ・パワーリハビリを中心とした機能訓練特化型の和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森を開設、一年で登録者45名を確保することができた。

- ・各事業所が真摯にご利用者と向き合い、「自立支援」と「尊厳を守る」ケアを推進することで、ご利用者のADL、QOLの向上に繋がり、地域の信頼を得てきた結果がご利用者の増加に繋がっている。
- ・各サービス事業所、居宅介護支援事業所との連携や病院関係等への直接的な情報提供の他、地域での介護予防事業の積極的な実施、地域貢献事業を含めた地域活動への参画を進めて関係強化を図った。

② 支出の適正化

- ・支出の精査
長期にわたり物品納入や委託契約等を締結している当法人契約業者に対し、他業者との見積り合わせや入札による業者見直しを行い、徹底したコスト削減を図った。
- ・予算執行状況の明確化
各事業所、職域責任者との予算作成により、実質的な数値を提示することで、コスト管理意識の強化を図るとともに、役職者の責務として計画的な予算執行の推進を図った。
- ・職員採用時期、雇用形態のバランスを崩し、人件費が高騰した事業所があったため、新年度に向けて職員配置常勤換算数の再確認を行い、人員配置調整を行った。
- ・施設の老朽化対策として施設整備積立金、法人設立50周年記念事業等として人件費積立金を積み立てることができた。

(3) 人材視点（採用力と定着力の強化）

- ・採用力の強化として、働きやすい職場環境、資格取得のための支援体制、福利厚生の実施、各事業所の具体的な取り組み内容等、職員を中心としたホームページの定期更新を行った。
- ・定着力の強化としては、新任職員の育成のために研修プログラムやプリセプター制度の実施を図るとともに、職員とのコミュニケーションを充実させ、離職者の減少に努めた。
- ・「職場定着促進事業」として、セクションごとに交流研修会を開催し法人より職員一人3,000円の助成金を支給した。職場を離れての交流はお互いを知る好機となりチームワークの強化に繋がっている。
- ・介護職員処遇改善金の支給の他、全職員に対し謝礼金「ありがとう」の支給を実施した。
- ・介護福祉士資格取得のため、法人内職員が講師となる受験対策勉強会を定期的に開催するとともに、介護福祉士養成大学助教授を講師に招き、受験直前対策講座を開催、高い合格率となった。
- ・内部研修、外部派遣研修への参加や外部研修講師としての職員派遣により知識、技術の向上に努めた。
- ・ワークライフバランスの取り組みを継続し、育児休暇、介護休暇、有給休暇の取得、5日から7日の連続休暇の取得推奨に取り組んだ。また、ノー残業デー実施日を統一したことで実施率の向上を図ることができた。

(4) 地域視点

① 地域貢献事業

- ・地域の高齢者、障がいをお持ちの方々等の外出支援を行う「いしやま朝市送迎バス」を運行した。利用される方が増加し、地域に喜ばれる活動として評価を受けている。
- ・認知症の方の介護をしているご家族（地域の方）を対象に、認知症によるBPSD（行動・心理障害）を竹内理論の実践を通して消失、改善を図ることで認知症のご本人、ご家族ともに平穏な日常を取り戻していただきたいとの目的で「認知症状改善塾」を開講した。

- ・「介護なんでも相談」（1回/月）を開催し、約9年が経過した。会場を提供していただいているイオン藻岩店様と連携し、地域の方々が買い物の際に気軽に介護相談できるような環境整備に取り組んだ。
- ・2009年度から実施している職員有志での地域のごみ拾いを年2回実施した。年々、ごみ拾いに参加する職員も増加し、職員個々の地域への貢献意識の高まりも感じられるようになってきた。
- ・近隣幼稚園との交流の継続と小・中・高校生、福祉・医療分野の専門学校生の見学、職業体験、実習を積極的に受け入れ、将来の福祉、医療、介護を担う人材作りに取り組むことができた。

② その他

- ・地域関係機関の会合等への参加と広報活動の推進を図った（広報誌「かけはし」の発行）。

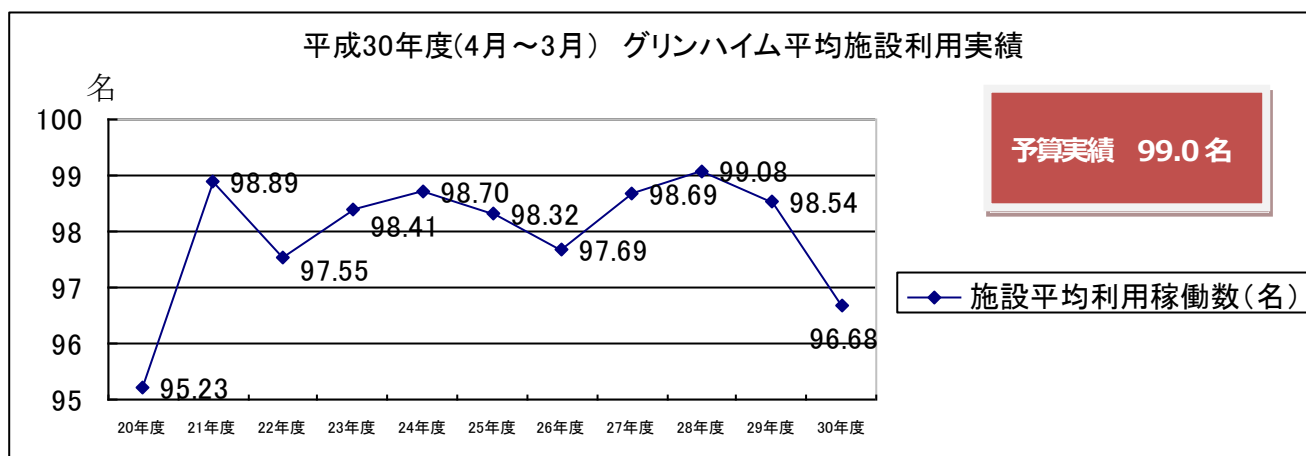
(5) ガバナンス視点

- ・2018年度は、改正社会福祉法を遵守し、定時評議員会、理事会を開催し、予算、事業計画、決算、事業報告、定款・規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の審議、決定及び報告を行った。また、会計、サービス内容の両面にわたる経営と運営の適正化に向けた監事監査を受けた。
- ・苦情解決第三者委員会、虐待防止第三者委員会を開催し、公正中立の立場での意見を聴取し、苦情の解決、課題の改善を図った。
- ・適正且つ迅速な試算表作成により、的確な経営管理を実践するとともに、毎月顧問会計事務所による監査、助言、指導を受け、より正確な会計管理を実践することができた。
- ・介護業界を主な活動分野とする社会保険労務士と顧問契約を締結し、介護分野における労務管理に関する助言、指導を受けると共に助成金の活用や申請に関する情報を得ることができた。
- ・情報公開（定款、各種規程等、事業計画、予算、事業報告、決算等）、アカウントビリティ（説明責任）の推進のため、内部ではインフォメーション、ネットワーク等を使用し、外部へはホームページや広報誌「かけはし」、Facebook等により情報発信を図り、透明性の高い健全経営に取り組んでいる。

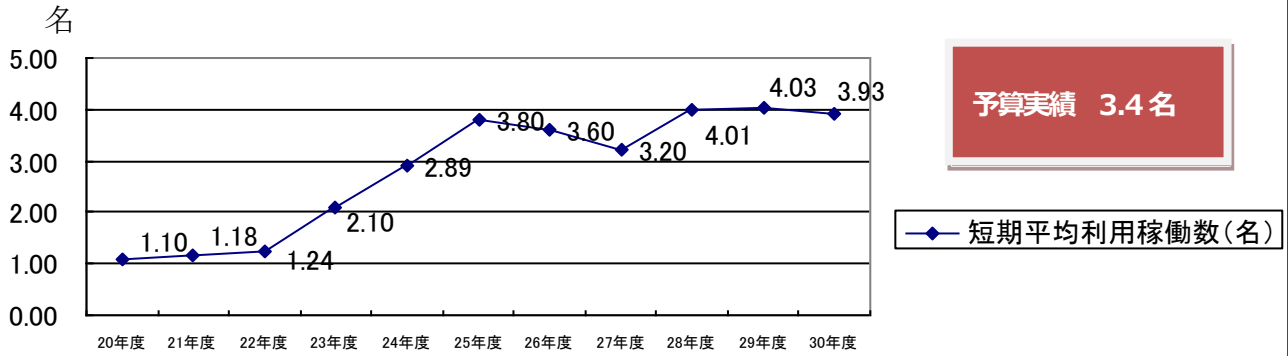
3. 各事業所事業実績状況

(1) グリーンハイム管理区分

【障がい者支援施設グリーンハイム】

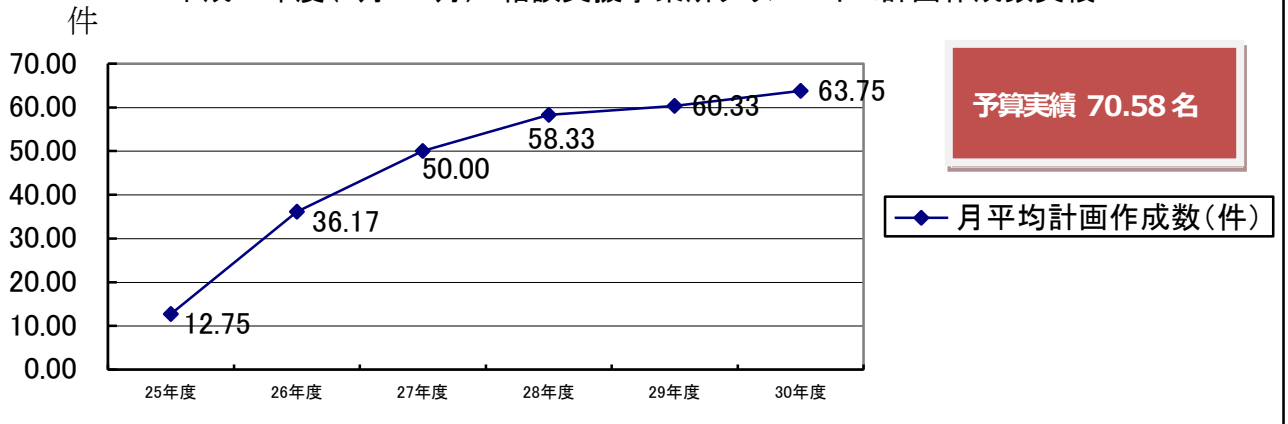


平成30年度(4月～3月) グリーンハイム平均短期入所利用実績

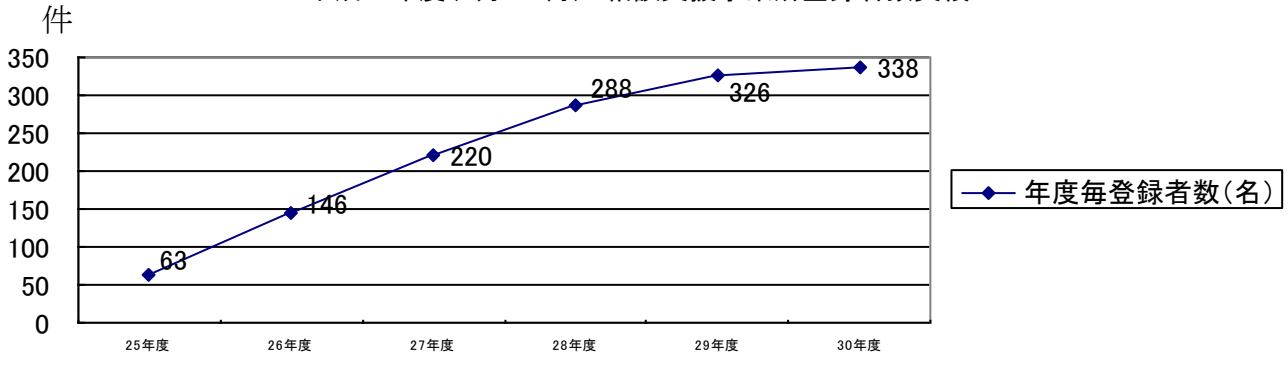


【相談支援事業所グリーンハイム】

平成30年度(4月～3月) 相談支援事業所グリーンハイム計画作成数実績

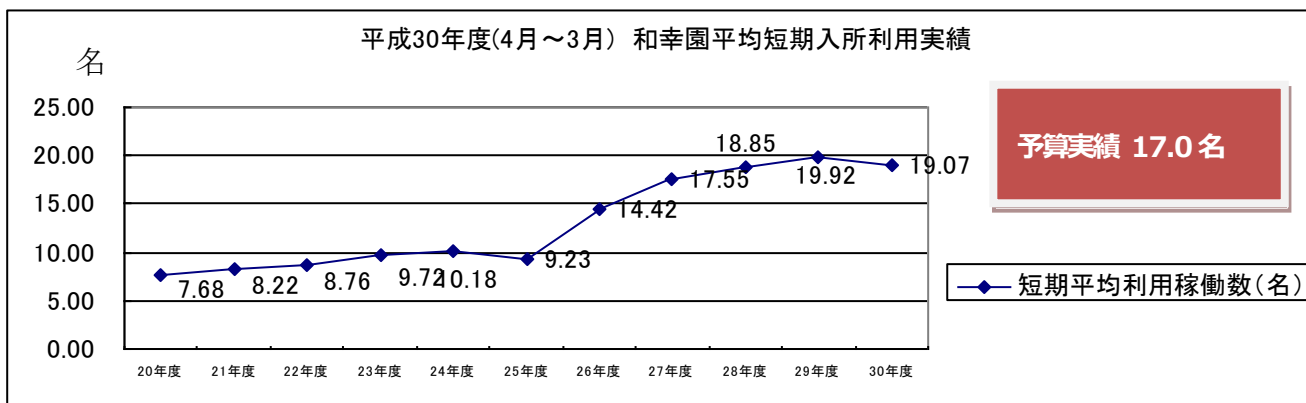
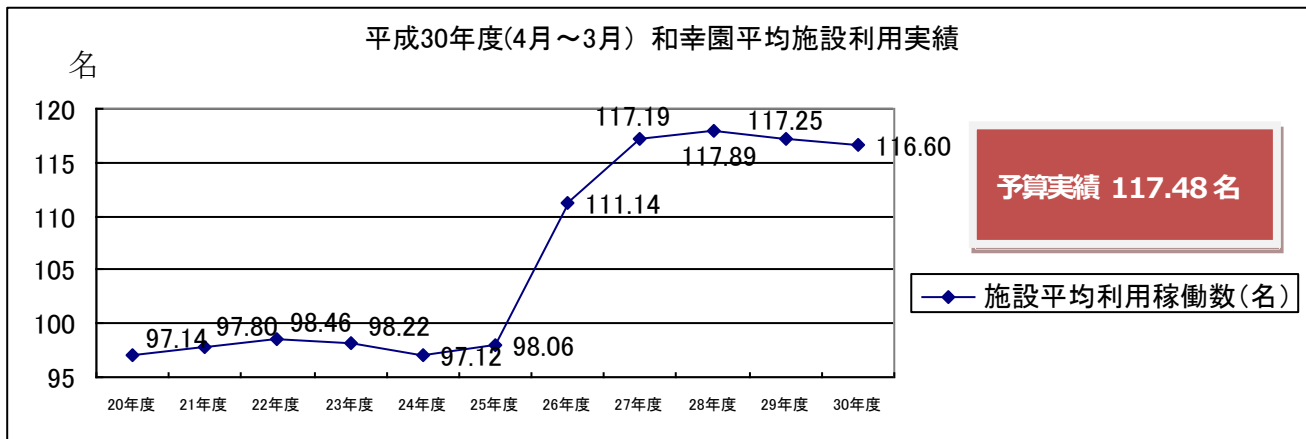


平成30年度(4月～3月) 相談支援事業所登録者数実績



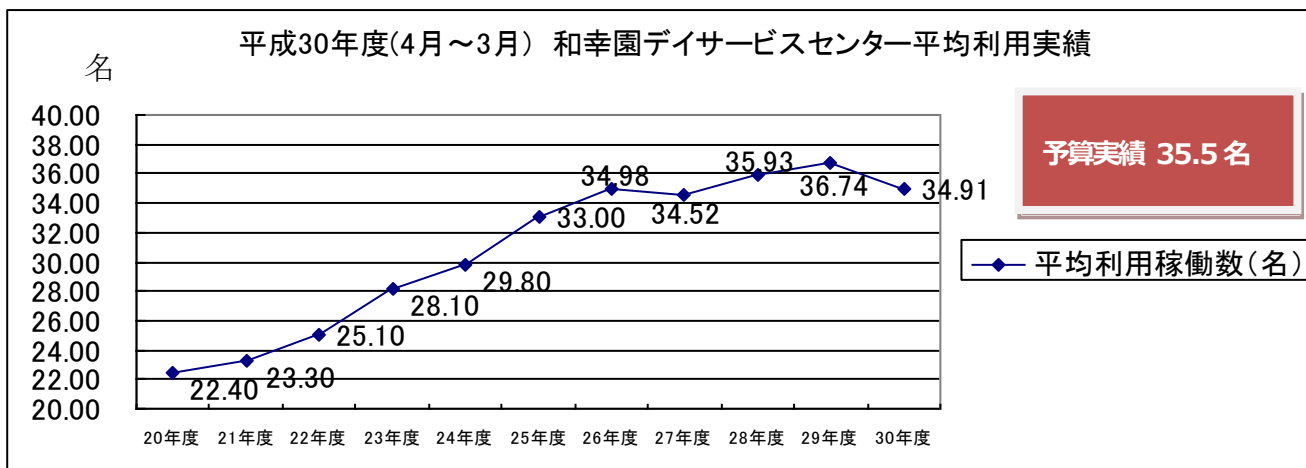
(2) 和幸園管理区分

【特別養護老人ホーム和幸園】

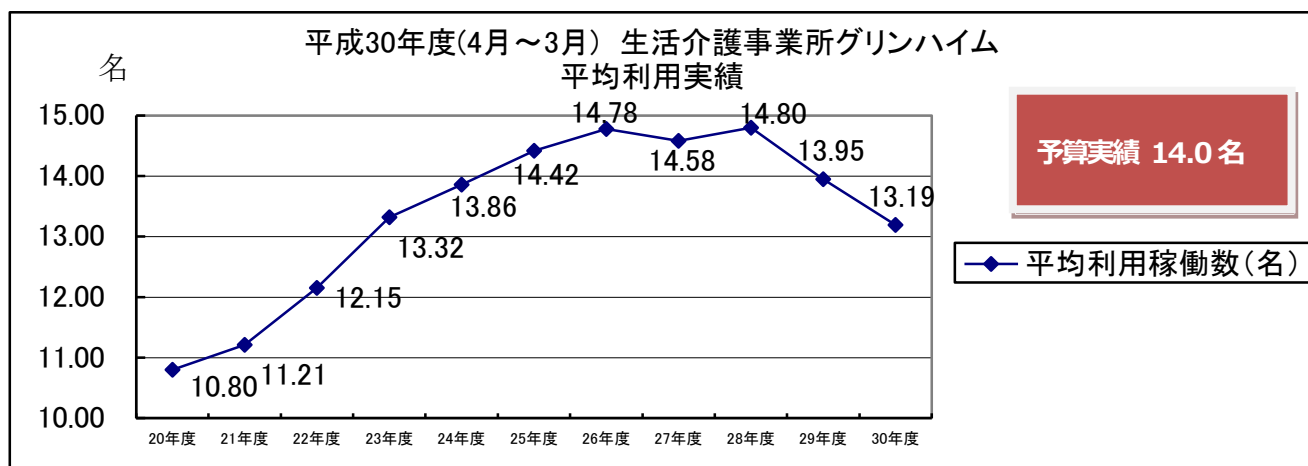


(3) 通所事業部管理区分

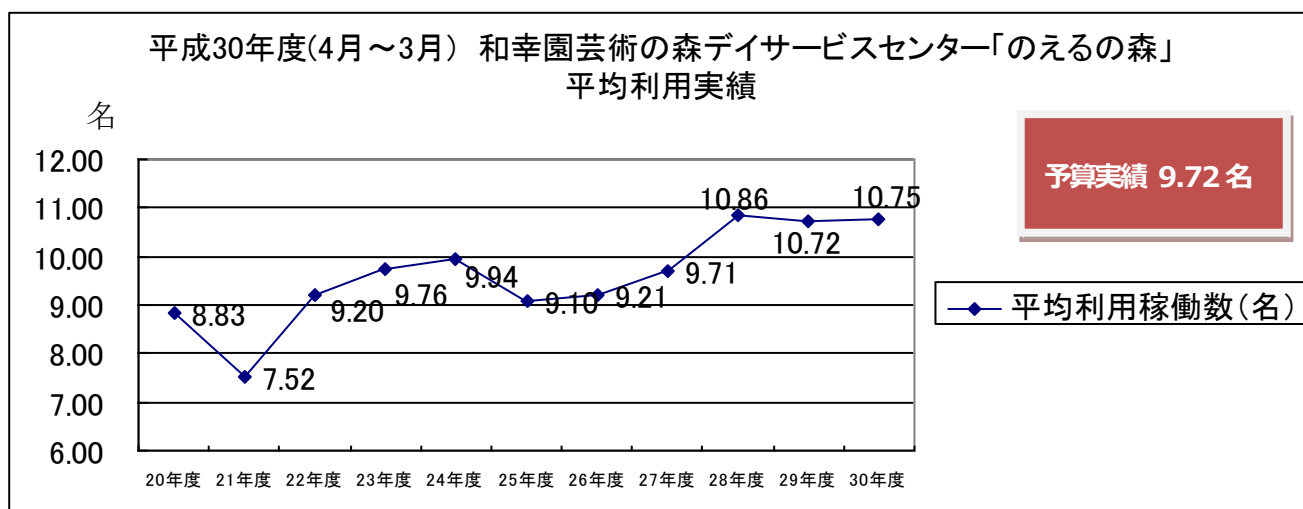
【和幸園デイサービスセンター】



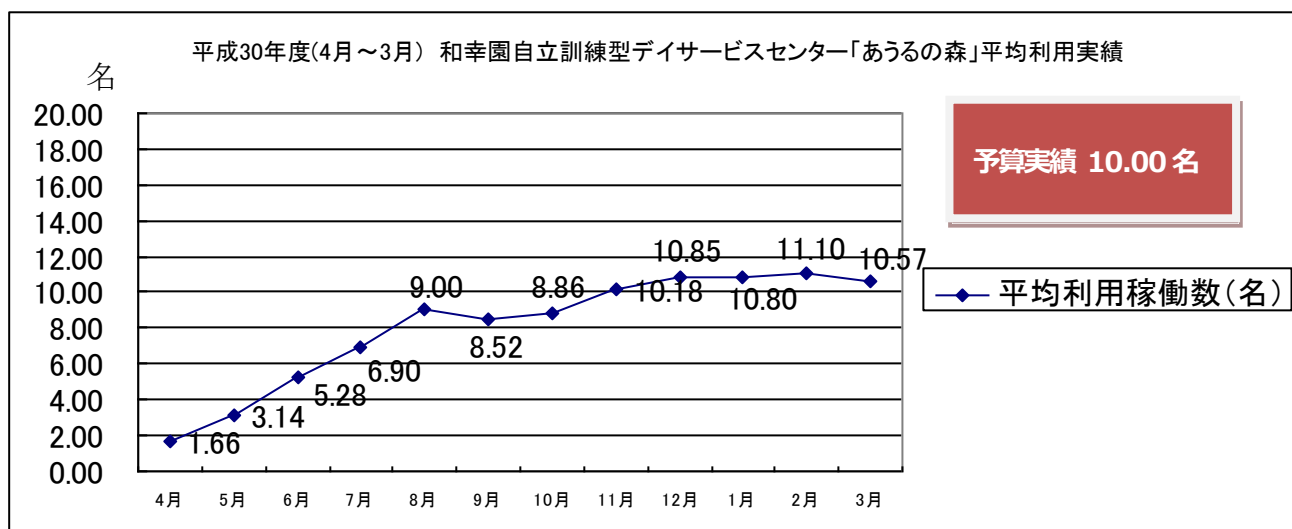
【生活介護事業所グリーンハイム】



【和幸園芸術の森デイサービスセンター「のえるの森」】

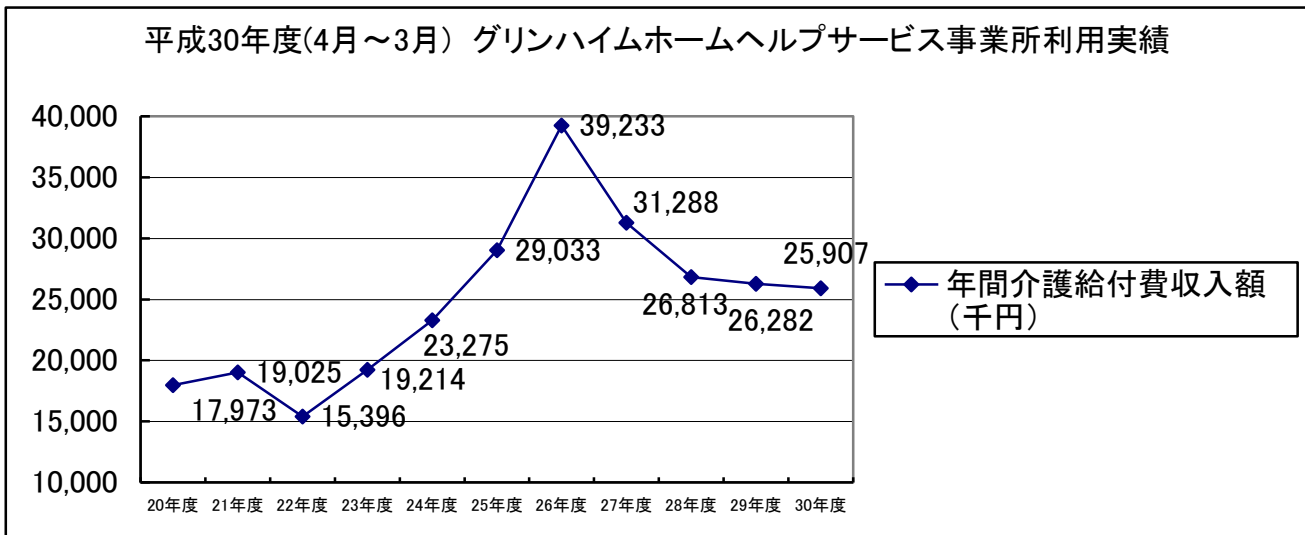
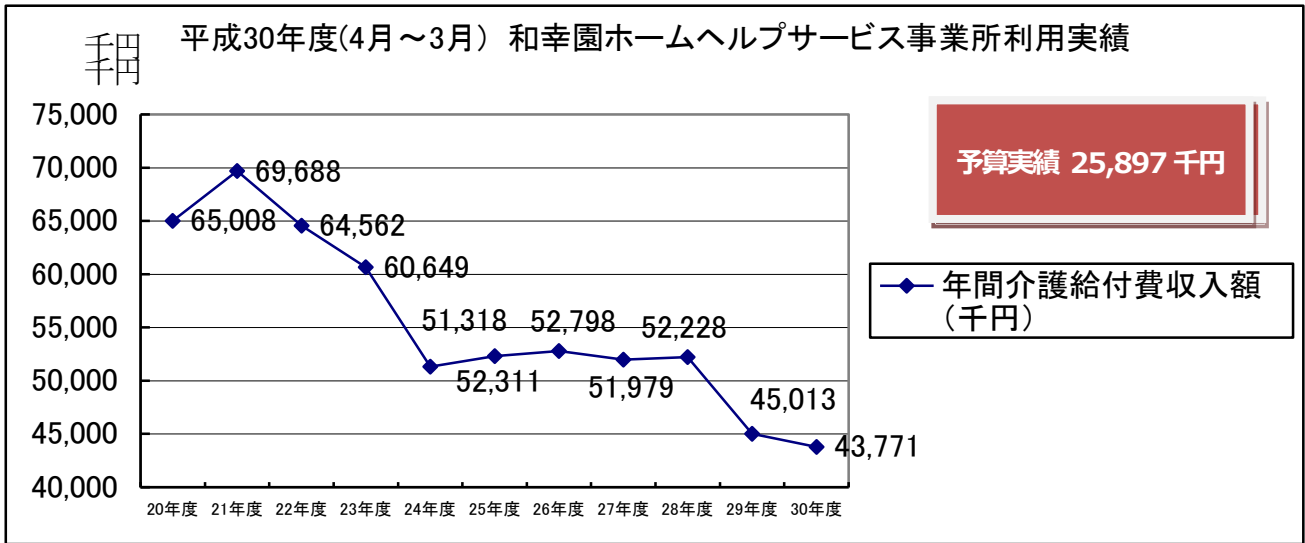


【和幸園自立訓練型デイサービスセンター「あうるの森」】

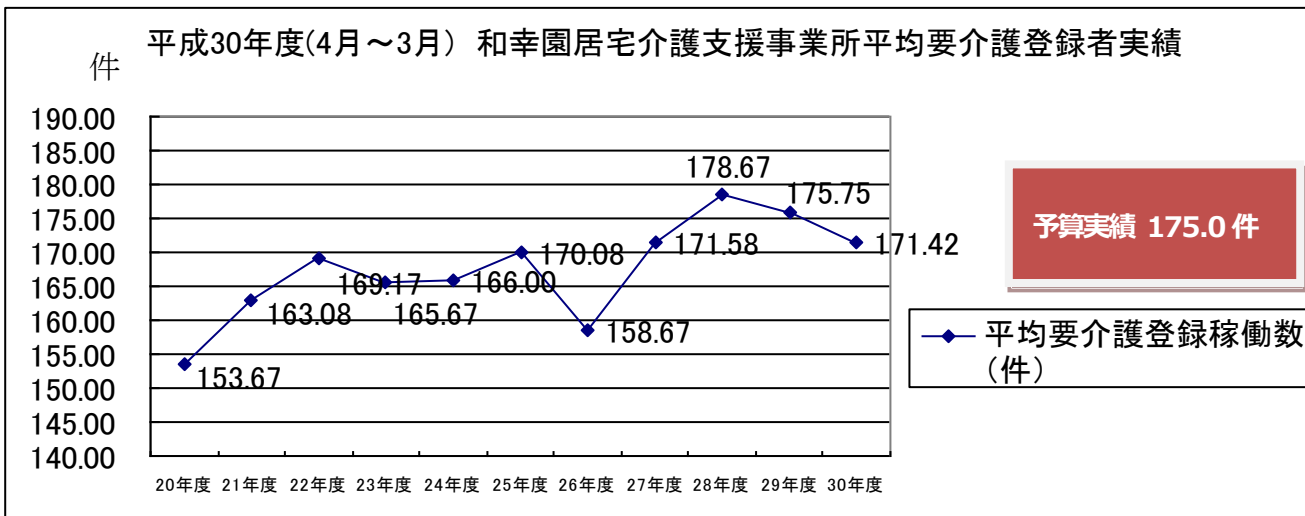


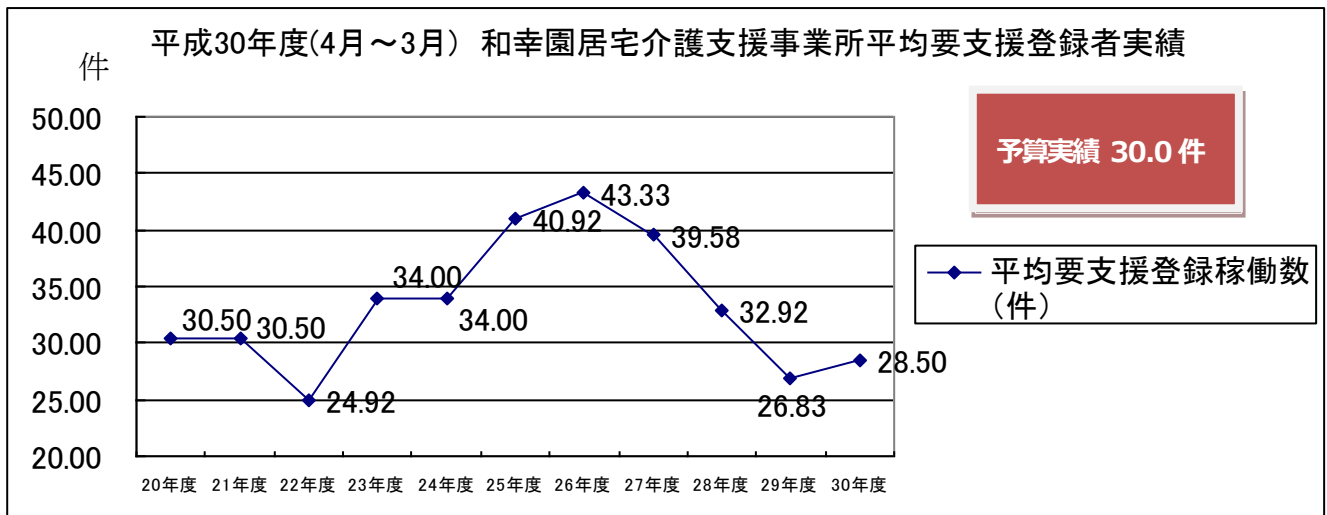
(4) 地域事業部管理区分

【ホームヘルプサービス事業所】



【和幸園居宅介護支援事業所】





1. 法人事務局

(1) 法人事務

法人事務局では、改正社会福祉法を遵守した法人運営を目指し、定時評議員会、理事会において、予算、事業計画、決算、事業報告、定款・規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の審議、決定を行うための運営支援を行ってきた。法人執行部が実践する経営・運営の改善に向けた法人運営施策への支援及び円滑な法人運営のための環境整備を行い、法人の経営・運営状態は良い状態を維持することができている。

法人事務経理部門については、リーダーを中心に経理業務を丁寧、正確且つ迅速に進めることに努め、時間外勤務をせずに適正に業務を遂行することができている。また、法人事務総務部門については、給与・人事ソフトの本格運用を開始し、給与計算の短時間化や職員の勤務状況の正確な把握が可能となり、業務の効率化に繋がっており、時間外勤務の削減を実現できている。

事務職員としてのご利用者との交流及びご利用者支援への参画については、2018年度も継続し、ご利用者行事等への参画を行った。公園清掃はグリーンハイムご利用者と一緒に公園の清掃作業を行い、その後喫茶店での時間を共に過ごすことができた。グリーンハイムご利用者に好評を頂いている事務喫茶は6年目を迎え、2016年度からは和幸園でも開催している。今後もご利用者と交流できる機会として、より内容を充実していきたい。

(2) 理事・評議員・監事 (定数: 理事6名、評議員8名、監事2名)

2019年3月31日現在

役 職	氏 名	職 業	任 期
理事長・評議員	太田三夫	弁護士	2017. 4. 1 ~ 2019. 6
常務理事	平松朋紀	グリーンハイム施設長・法人事務局長	2017. 4. 1 ~ 2019. 6
理 事	大沼百合子	元常務理事	2017. 4. 1 ~ 2019. 6
〃	石川秀也	北海道医療大学 非常勤講師	2018. 6. 19 ~ 2019. 6
〃	佐藤史彰	和幸園施設長	2017. 4. 1 ~ 2019. 6
〃	檜森道子	地域事業部部長	2017. 4. 1 ~ 2019. 6
評 議 員	浅香博文	札幌市身体障害者福祉協会 会長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	岩本龍明	アイケン工業 (株) 代表取締役	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	大磯英太郎	石山商店街振興組合 理事長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	北山和子	札幌市赤十字奉仕団石山分団 団長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	塩田恒雄	芸術の森地区社会福祉協議会会長	2018. 6. 1 ~ 2021. 6
〃	千葉 徹	(福) 札幌育児園 施設長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	西村 稔	(福) 札幌南福祉会 理事長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	福土昭夫	石山地区町内会連合会 会長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
監 事	土肥富彦	元道立福祉村 施設長	2017. 4. 1 ~ 2019. 6
〃	石川由男	税理士	2017. 4. 1 ~ 2019. 6

(3) 理事会開催状況

第1回 (日時) 2018年5月31日 (木) 午後3時00分から グリーンハイム会議室

(出席者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、佐藤史彰、檜森道子 (理事5名)
土肥富彦、石川由男 (監事2名)

(事務局) 平松常務理事 (兼事務局長)

(議題) 2017年度事業報告 (案) について

2017年度決算報告 (案) について

監事監査 (2017年度全般) 結果について

就業規則の改正について

定時評議員会の開催について

(報告) 評議員の選任について

(その他) ハピニス祭の開催について

2018年9月2日 (日) 午前10時30分 ~ 午後3:00

ご利用者、役員懇談会の開催について

苦情解決第三者委員会及び虐待防止第三者委員会の開催について

- 第2回 (日時) 2018年9月19日(水) 午前10時30分から グリンハイム会議室
 (出席者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子(理事6名)
 土肥富彦、石川由男(監事2名)
 (事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
 (議題) 2018年度 第1次収支補正予算(案)について
 (報告) 監事監査結果報告について
 特別養護老人ホーム和幸園において発生したご利用者への身体拘束事件について
 台風21号・胆振東部地震の被害状況及び対応について
 2018年度(4月～8月期)事業実績状況について
- 第3回 (日時) 2018年12月22日(土) 午前10時30分から グリンハイム会議室
 (出席者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子(理事6名)
 土肥富彦、石川由男(監事2名)
 (事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
 (議題) 2018年度 第2次収支補正予算(案)について
 厨房業務委託契約の更新について
 経理規程の改正について
 評議員会の開催について
 (報告) 監事監査結果報告について
 特別養護老人ホーム和幸園において発生したご利用者への身体拘束事件について
 札幌市実地指導監査(定期)の結果について
 理事長及び常務理事の職務執行状況について(法人の経営状況等について)
- 第4回 (日時) 2019年3月23日(土) 午前10時30分から グリンハイム会議室
 (出席者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子(理事6名)
 土肥富彦、石川由男(監事2名)
 (事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
 (議題) 2018年度 第3次収支補正予算(案)について
 2019年度 事業計画(案)について
 2019年度 収支予算(案)について
 給与規程の改正について
 (報告) 監事監査結果報告について
 理事長及び常務理事の職務執行状況について(法人の経営状況等について)

(4) 評議員会開催状況

- 第1回 (日時) 2018年6月19日(火) 午後3時00分から グリーンハイム多目的室
(出席者) 浅香博文、大磯英太郎、北山和子、塩田恒雄、千葉徹、福士昭夫(評議員6名)
土肥富彦、石川由男(監事2名)
太田三夫、平松朋紀、佐藤史彰、檜森道子(理事4名)
(事務局・議事録作成)
平松常務理事(兼事務局長)
- (議題) 2017年度事業報告(案)について
2017年度決算報告(案)について
監事監査(2017年度全般)結果について
新役員(理事)の選任について
定款の一部改正について
- (報告) 評議員の選任・退任について
- (その他) ハピニス祭の開催について
2018年9月2日(日) 午前10時30分～午後3:00
ご利用者、役員懇談会の開催について
2018年8月19日(日) 午後2時00分～
苦情解決第三者委員会及び虐待防止第三者委員会の開催について
2018年8月19日(日) 午後3時30分～
- 第2回 (日時) 2019年1月12日(土) 午前11時00分から アパホテル&リゾート札幌
(出席者) 岩本龍明、大磯英太郎、北山和子、塩田恒雄、千葉徹、福士昭夫(評議員6名)
土肥富彦、石川由男(監事2名)
太田三夫、平松朋紀、佐藤史彰、檜森道子(理事4名)
(事務局・議事録作成)
平松常務理事(兼事務局長)
- (報告) 監事監査結果報告について
特別養護老人ホーム和幸園において発生したご利用者への身体拘束事件について
(改善状況報告)
札幌市実地指導監査(定期)の結果について
理事長及び常務理事の職務執行状況について(法人の経営状況等について)

(5) ご利用者・法人役員懇談会開催

(日時) 2018年 8月19日(日) 午後2時00分～

(6) 苦情解決第三者委員会開催

(日時) 2018年 8月19日(日) 午後3時00分～

(7) 職員表彰関係

表 彰 内 容	受 賞 内 容		
全国老人福祉施設協議会	15年勤続	和幸園	0名
	20年勤続	和幸園	0名
北海道社会福祉協議会長表彰 (北海道社会福祉協議会)	20年勤続	和幸園	0名
		グリーンハイム	0名
札幌市社会福祉事業表彰 (札幌市社会福祉協議会)	15年勤続	和幸園	0名
長期勤続職員表彰 (北海道民間共済会)	5年勤続	グリーンハイム	4名
		和幸園	9名
		和幸園デイ	1名
	10年勤続	グリーンハイム	3名
		和幸園	2名
	20年勤続	グリーンハイム	0名
		和幸園	0名
30年勤続	グリーンハイム	1名	
全国身体障害者施設協議会	15年勤続	グリーンハイム	0名
永年勤続表彰 (北海道ハピニス)	10年勤続	グリーンハイム	4名
		和幸園	2名
		ホームヘルプ サービス	2名
		芸術の森	1名
	20年勤続	和幸園デイ	1名
	30年勤続	該当者なし	0名

(8) 防災訓練実施状況

実 施 日	実施内容	指 示 条 件
2018年5月23日 (水)	通報・ご利用者の避難誘導 消火器の取り扱い	グリーンハイムより出火想定訓練(北側へ避難) ①出火想定時間及び場所 夜間想定、午後11時00分 グリーンハイム本館3階北側居室316号室 ②他階・和幸園及びデイサービスでは 日中想定訓練(午前11時00分)
2018年10月5日 (金)	通報・ご利用者の避難誘導 消火器の取り扱い	和幸園より出火想定訓練 (4丁目側へ避難) ①出火想定時間及び場所 夜間想定、午後11時00分 和幸園 (4階) 4条1丁目10番地 (居室) ②他階・グリーンハイム及びデイサービスでは 日中想定訓練 (午前11時00分)

(9) 業務委託状況

業 務 内 容	委 託 先
施設厨房業務	北海道フジフードサービス (株)
夜間警備業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
送迎車輛運転業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
清掃業務	(株) シムス
昇降機定期点検業務	SECエレベーター(株) 三菱電機ビルテクノサービス(株)
専用水道水質検査業務	(財)北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
自動ドア保守点検業務	フルテック(株)
非常火災設備保守点検業務	(株) ネットワークイン
冬期除雪業務	(有) 小林重機
デジタル交換機保守	新日本通信工業(株)
税務・会計顧問	税理士法人幌西会計
労務・総務顧問	社会保険労務士事業所テラス
職員検診	医療法人社団明日佳 札幌検診センター
ストレスチェック	医療法人社団五稜会 札幌CBT&EAPセンター

(10) 法人建物・車輛の維持管理

① 建物

実 施 内 容		
年間	電気設備点検 (グリーンハイム・和幸園) 専用水道水質検査 (グリーンハイム・和幸園)	[北海道電気保安協会] [道薬検]
4月	貯水槽清掃 (グリーンハイム・和幸園)	[小川技研]
6月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備 汚水槽清掃点検 (グリーンハイム・和幸園)	[正栄機工] [小川技研]
8月	エコキュート点検整備 (グリーンハイム)	[前川製作所]
9月	消防用設備保守点検 (グリーンハイム・和幸園)	[ネットワークイン]
10月	厨房繰りストラップ清掃	[小川技研]
11月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備	[正栄機工]
12月	エコキュート点検整備 (グリーンハイム)	[前川製作所]
1月	汚水槽清掃点検 (グリーンハイム・和幸園)	[小川技研]
3月	消防用設備保守点検 (グリーンハイム・和幸園) 2号ボイラー点検整備	[ネットワークイン] [NTEC サービス]

② 車輛

車輛台数 30台/車検13台実施

2019年3月31日現在

所 属	台数
グリーンハイム・和幸園職員送迎バス	1台
障がい者支援施設グリーンハイム	4台
特別養護老人ホーム和幸園	3台
和幸園デイサービスセンター	6台
生活介護事業所グリーンハイム	3台
和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森	3台
和幸園指定居宅介護支援事業所	4台
グリーンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所	4台
和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森	2台
計	30台

(11) ご利用者預り金管理

区 分	預かり人数	預り金残高(2019.3.31)
グリーンハイム	95名	218,334,810円
和幸園	7名	1,573,557円

(12) 法人研修(他法人・事業所公開研修会)

NO	研 修 名	開催日	参加人数
1	「高齢者を元気にする基本ケア」 国際医療福祉大学大学院 教授 竹内 孝仁 氏	2018年5月18日	82名
2	「香りで脳を活性化!アロマセラピーとタッチケア」 えーるケアサポート株式会社 主任介護支援専門員 佐藤 万里子 氏	2018年5月24日	80名
3	「多様性社会に求められるコミュニケーション」 全国訪問ボランティアナースの会 CANNUS 札幌 代表 真鍋 智美 氏	2018年7月25日	78名
4	「笑い与健康のステキな関係」 日本笑い学会北海道支部 支部長 伊藤 一輔 氏	2018年9月27日	69名
5	「職場のコミュニケーションテクニック」 株式会社ヒューマンリソース 小泉 笑美子 氏	2018年11月21日	74名
6	「介護福祉士受験対策講座」 旭川大学短期大学部 生活福祉専攻 助教授 宮下 史恵 氏	2019年1月11日	11名
7	「社会保障の動向について」 元厚生労働事務次官 二川 一男 氏	2019年1月30日	80名
8	「リスクマネジメントについて」 有限会社オフィスブレイン 代表取締役 佐々木 厚史 氏	2019年2月 6日	62名

(13) 地域貢献活動

- ・介護なんでも相談会
イオン藻岩店様店内特設ブースにて年11回相談会を開催
- ・認知症状改善塾
2018年4月から2019年3月までの期間で2期、全12回開催
地域住民から2期合わせて11名の参加
- ・いしやま朝市送迎バス
毎月2回地域住民が「いしやま朝市」へ参加するための送迎バスの運行を実施
- ・地域福祉活動
町内会ゴミ拾い(年2回)
第1回 2018年 5月
第2回 2018年 10月

(14) 広報活動(広報委員会)

- ・広報誌「かけはし」の作成(年3回発行)
2018年6月発行(44号)、2018年10月発行(45号)、2019年1月発行(46号)
- ・ホームページ及びFacebookの運営

2. 障がい者支援施設 グリンハイム

1. 総括

2018年度は、前年度に引き続き、施設長、看護係長、生活係長、相談係長が施設運営の核として定期的な役職者会議を開催し、施設の方針の決定、経営、運営状況等の確認を進めながら着実な施設運営と組織改革に取り組んできた。また、役職者会議での検討内容を主として、主任会議をはじめとした各種会議、委員会へ情報発信を行うという形で透明性の高い組織体制を構築することを意識し取り組んできた。

この組織体制の下で、2018年度についても施設運営の柱を「職員定着率の向上」と「安定した施設経営の推進」として、課長、係長をはじめとした職員が一丸となって取り組むことができた。

「職員定着率の向上」については、退職者11名（2017年度退職者4名、2016年度退職者22名）となり、高い定着率の維持には繋がれなかったが、この1年間は、施設長・生活係長による主任、リーダーとの面談、主任、リーダー、プリセプターとの新人職員の育成状況の確認とフォローアップ面談を継続して実施してきた。そのことにより、施設全体で職員を育成、フォローアップするという体制が維持でき、職員間の良いコミュニケーションを推進することができたと考えている。また、ご利用者はもとより、職員の働きやすい環境を創ることを目的として実践した「接遇向上 Challenge」研修についても、職員間の良いコミュニケーションの促進に効果があったと考えている。さらに、「接遇向上 Challenge」研修に取り組んだ効果として、「ご利用者家族会」でのアンケート等により、「職員が明るくなった」「対応が良くなった」「接遇ができています」等の非常にありがたい言葉をいただくことができた。これらは、職員が創り出した実績であり、このことが日頃のケアに結びつき、支援の質、量の向上に繋がるものとなっている。例えば、グループ毎の行事やクラブ活動、全体行事等、職員の創造力を発揮した新しい取り組みを実践することができているとともに、ターミナルケアの実践等の専門性の高いケアを実践することもできた。その他、「接遇向上 Challenge」や「日誌ソフトプロジェクト」においても、組織としての機能をしっかりと働かせることで、職員個々が持ち味を発揮する素晴らしい活躍を見せてくれた。

次に「安定した施設経営の推進」については、施設入居実績96.68%（予算比▲2.32%）、ショートステイ98.22%（予算比+13.22%）との結果となり、総合実績において予算実績を上回ることができなかった。例年と比較し、退去者、入院者（外泊者）が多かったこと、また入居待機者の確保が不十分であったため、入居部門の空床をショートステイに利用する等のベッドコントロールを図ったが、予算実績に届かないという厳しい結果となった。安定した施設経営に繋げるためにも待機者の確保が喫緊の課題であると認識している。

最後に、2018年度はリーダーと主任を2名ずつ昇格するとともに、職員育成を目的としたグループ間、事業所間、職種間の人事異動を行い、次期の役職者の育成にも着手し始めることができた。1年を通じて、既存の職員を中心に、しっかりと地盤を固めるための職員育成とチームケア力の向上に努めることができたと評価している。

2. 本年度の重点目標

【相談係】

- ① ご利用者支援の充実と入居及びショートステイのベッド管理、双方のバランスを図りながら、施設運営に携わっていく。

施設入所の利用実績は平均利用人数96.68名であり、目標に掲げていた99.00名には届かなかった。前年度よりご利用者の外泊による不在は20日減少したが、入院による不在が513日増加したことが大きな要因であったことと、1年を通じて12名が退所されたこと、待機者が不足したことにより円滑に入居の受け入れができなかったこと等があげられる。入院については、今後も一定程度リスク管理しながら、医療機関と連携を図り、現状の把握や退院の目処などの情報収集をこまめに行うことで入院期間短縮への取り組みを行っていききたい。また、待機者については医療機関や相談支援事業所等に周知活動を行い、待機者確保に努めていきたい。

- ② 法人内の障がいサービス事業所と連携を図りながら、ご利用者が利用しやすい包括的なサービス提供を行い、利用者確保に努める。

法人内の事業所とは連絡を密にしながら連携することができ、ご利用者の利益に繋げられたと評価している。利用者確保については、入所部門では待機者の確保が難しかった状況があり、確保に向けての周知活動が課題となった。短期入所部門では、新規利用の相談を利用に繋げることができ、既存の定期ご利用者とともに、安定してご利用者を確保できた。

- ③ 業務効率化のための見直しを継続するとともに、ワークライフバランスの向上に努め、法人行動計画達成のため、時間外労働の低減を図っていく。

今年度、内部異動による体制変更があったことと、実習等で一部相談員が不在となる期間もあったが、相談員一人あたりの月平均の時間外労働は前年度と大きく変わらなかった。ただ、一部の相談員に負荷がかかる状況があり、個別で見ると時間外労働の時間増となった相談員もいたことから、改めて業務内容を見直すとともに、相談員一人ひとりがすべての業務に携われるようになることを目指し、今以上にフォローし合える体制を構築していく必要があると考えている。

- ④ 接遇向上について、ご利用者支援の質の向上、職員間コミュニケーションの促進や職場環境の改善に繋がるよう取り組みを継続していく。

今年度も外部講師による接遇研修の開催や、内部での接遇委員会を通して、職域ごとの取り組みを共有しながら全体として取り組むことができ、ご利用者支援の質の向上はもとより、職員間のコミュニケーションが円滑に進められるようになり、職場環境の改善に繋がっていると評価している。

- ⑤ 計画的に有給休暇を取得し、付与日数の50%取得を目指していく。

有給休暇については、概ね50%の取得ができているが、一部取得できていない職員もいるので、次年度に向けて計画的に取得できる体制を検討していきたい。

- ⑥ 各種加算の確実な実施、コンプライアンスの遵守。

体制加算である重度障害者支援加算、栄養ケアマネジメント加算は、継続的に算定することができた。また、リハビリテーション加算対象者については、目標としていた60名を維持できている。今後も加算算定を継続するために、看護課や配置医である南札幌脳神経外科と連携しながら体制を構築していきたい。

- ⑦ 制度改正の内容(単価、加算要件等)について十分理解し、改正の内容に即した事業展開を図る。

障害支援区分について、2018年度は入所者のうち21名の認定調査があり、うち3名の区分が上がっている。障害支援区分で重度に当たる区分5、6の割合は年度末で82%であり前年度末と変わってい

ない。また、状態像変化による区分変更については、次年度に数名を予定している。今後も引き続き、ご利用者の状態像把握に努め、通常の認定調査のほか、途中で状態が変わった場合の区分変更についても検討し対応していきたい。

【生活係】

- ① **ご利用者が法人基本理念に基づいた生活が過ごせるように、自己決定、自立支援を目指したケアプランを多職種協働で立案し、ケアプランに基づいた支援を提供する。**

多職種協働によりケアプランに基づいたサービスの提供に努めることができた。次年度も継続して支援を行っていききたい。

- ② **施設の方針に基づき、グループ、職員間の意思統一を図り、チーム力の向上を図る。**

今年度も退職者は出たが、既存職員での連携を図りながら業務を遂行することができ、チームワーク力向上に繋がったと評価している。職員間の良い関係作りは主任・リーダーが中心となり次年度も継続していききたい。

- ③ **ご利用者が安全、安心な生活が過ごせるように、職員間の情報共有マニュアルの遵守を図り、事故や怪我の防止、感染症の予防に努める。**

大きな転倒事故は昨年より減り、職員の見守りや「危機意識」が高まった成果であると考え。しかし一方で、服薬忘れや誤薬事故が起こり、これらは職員が焦りからよく確認をせずに起こす場合が多くみられた。次年度も焦らず確認を忘れないことを服薬動作の中で実践していききたい。12月後半から「インフルエンザ」感染が始まり本館4グループに広がった。職員としての感染予防、感染対策に対する認識が脆弱であったことが要因の一つに挙げられる。一年を通して日常の介護の中で感染予防を行うことの必要性を再確認し、感染予防対策を実践していききたい。

- ④ **虐待防止、権利擁護について、施設としてしっかりと向き合い、不適切なケアの発生を防止する為、職員間の連携力の強化を目指し、施設として接遇の向上に取り組む。**

ここ数年の各種取組みにより「虐待防止」に対する意識は高くなったと考える。「接遇向上」及び「虐待防止」研修により学んだ虐待に繋がる不適切な人間関係からもたらされる行動を意識し、日々実践することで成果がみられていると考える。

- ⑤ **計画的に専門職としての知識、技術を習得し、支援力の向上を図る。**

今年度は外部講師による介護技術研修を内部研修として行った。各グループから1～2名と理学療法士が参加し、人間の身体の構造を理解しながら、ご利用者、職員双方にとって無理のない介護について学んだ。既存のケア方法と大きく異なる点もあるため、全体波及には時間を要するが、これまでに無い視点に基づいたケア方法を学ぶことができ、参加職員にとっては大きな刺激になった。今後も参加者を増やしながらグリーンハイム全体としてのケア方法を検討していくとともに、多くの職員が参加できるような研修の在り方を考えていききたい。

- ⑥ **安定的な職員の確保、育成を図り、時間外労働の削減、有給休暇の取得を推奨、労働環境の適正化を図る。**

今年度も中途の退職者があり、職員確保が必要であった。一定の人員が確保されて初めて時間外労働の削減が可能となり、有給休暇の取得が促進されることから、「職員を育てる」ことへの意識を職員全体が改めて持つ必要があると考える。次年度も新人職員の定着を目指した育成を継続していく。

3. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

【相談係】

入居部門については、2階、3階、西館に担当相談員を配置する体制が2年目となった。ご利用者やご家族、職員にも定着し、相談員一人ひとりが担当者として責任を持ちながらご利用者、ご家族と向き合い、ご利用者が「その人らしい生活」を送れるような支援体制を構築することができた。

ご利用者の外出支援や、日中活動、行事等についても、レク係会議を開催しながら、職員の想像力を発揮した取り組みを実践することができ、ご利用者の楽しみや喜びに繋がる結果となった。

施設内虐待防止委員会で啓発活動や研修を開催し、また身体拘束廃止委員会では、身体拘束状態の解除に向けた取り組みを継続して行っている。

短期入所については、引き続き担当相談員を中心にご利用者やご家族と連絡を密に取りながら、ニーズに合わせた利用に繋げることができた。また、生活係や看護課の理解や協力を得ながら、新規のご利用者を受け入れることもでき短期入所事業としての役割を発揮することができたと評価している。次年度は、さらなる空床ベッドの活用に向けた体制を構築していきたいと考えている。

【生活係】

ご利用者のニーズに対し、各担当が他セクションと連携を取り支援を行うことができた。日中活動・レクリエーションはグループごとにご利用者の意見・要望を反映したものを実行した。カラオケ大会では職員も参加し、大盛況であった。ご利用者個別の活動も季節に合わせて提供され、グループ同士連携した展開もみられた。

「接遇」を意識した言動が職員に浸透してきたと考える。グループ・職域ごとに「接遇委員」を配置、目標を設定し、定期的に委員会を開催した。そのことにより、各グループ・職域の取り組みと成果について情報共有することで刺激し合うことに繋がったと評価している。

また、専門職としての知識・技術の習得から安心安楽な介護の提供を行う為に、介護技術研修や福祉用具を使用することで安心安楽な介護の実践を進めた。ベッドサイド固定のリフターや超低床ベッドを使用することで、転倒や職員の身体の負担の軽減となり職員の負担軽減に繋がっている。外部講師による介護技術研修では日頃の介護を見つめ直すとともに、ベッド・車椅子間等の移乗の問題を考える良い機会となった。

事故に関しては前年度よりも発生件数が減少し、「ヒヤリ」件数が増えたことは、事故に対する危険予知が増えてきた結果と評価している。一方で、「誤薬」に関しては支援者の責任性が大きくなるため、マニュアルに基づいた慎重な対応の継続が必要と考えている。

身体拘束廃止については、会議や各グループにおいて検証を行い、個人的な理由からベッド4点柵の解除ができない場合を除き達成されている。

感染症予防に対しては、早期の予防と職員研修、マニュアル遵守に努めたが、インフルエンザが発生し施設内で蔓延してしまった。次年度は職員全員が、日ごろからの感染防止のための行動を行い、感染が発症した段階で確実に隔離と感染防止に努められるよう体制を整備することが課題であると考えている。

(2) 財務視点

入居の実績目標99,00名に対し、96,68名の結果となった。前年度より入院日数が513日増加したこと、下半期には待機者の不足により、ご利用者の退所時に円滑に入居の受け入れが進められなかったことが大きな要因となっている。1年を通して退所者は過去5年で最も多い12名であった。次年度に向けて、待機者の確保とともに、医療機関と連携しながら入院者の状況確認を進めていきたい。

短期入所については、実績目標3,6名に対し3,93名の結果であり、昨年度に引き続き高い実績を維持することができた。定期のご利用者が安定的に利用していただけたことが大きな要因であるとともに、ご利用者のニーズに対する職員の理解や受け入れにあたっての事前準備、専門性の高いケアの実践が適切になされた結果であると評価している。

(3) 人材確保と育成

【相談係】

1年を通し、コミュニケーションを図りながら業務にあたることができ、相互の信頼関係を深めることができた。また、次年度に向けて、相談員一人ひとりが全体の業務を把握する体制づくりに向けた準備を進められた。適切な業務分担を行うとともに、個々のスキルアップに繋がっていくものと考えている。リーダーとなり得る相談員育成のため、必要な知識や技術のさらなる獲得に向けて、勉強会等を実施しながら、相談員としての支援の質を高めていきたい。

【生活係】

有給休暇の取得促進に向け、計画的に取得できるよう公休を含めた連続7日間の取得と低取得率者の取得率向上に取り組んだ。計画的な連続7日の休暇の取得は全職員が行うことはできなかったが、希望職員においては達成できた。時間外労働を削減し、職員のワークライフバランスの向上に努めたが、主任・リーダーの負担が多く次年度の課題となった。

介護福祉士の資格取得への支援を図る為、実務者研修、勉強会等へ参加しやすい環境を整えたことにより、介護福祉士試験合格者が増えた。介護未経験職員には実務者研修の参加希望者も多く、参加支援の効果が出て今年度介護福祉士受験者全員合格という結果になったことは大きく評価できるものとする。

新人職員育成については、マニュアルに沿って統一した指導を行い、マニュアルの順序で育成に関わった。新人職員の育成は担当係による技術講習を定期的に行い、統一した介護技術指導を行う形で取り組んだ。次年度に向けては、職員全体でチーム作りの為のコミュニケーション、職員定着の為の定期的な面談（個別・集団）を行い、職場や業務等への不安や課題の把握と対策の実践を継続して図っていくことが必要と考える。

(4) 地域貢献の推進

施設見学として西野学園、北海道医療大学の学生や真駒内養護学校PTA、砂川市民生委員児童委員協議会等を受け入れ、施設概要や提供サービス等の説明を行った。その他、定期的に真駒内養護学校もなみ学園分校の生徒による清掃ボランティアの受け入れも実施した。真駒内養護学校に関しては、保護者の皆様に施設入所や短期入所、生活介護について情報を提供することができ、卒業後の生活を支えるサービスを知っていただけたこと、学校との関係構築のきっかけになったことは有意義であったと考えている。

また、継続的に札幌ワンズ様にドッグダンスの練習場所として多目的ホールを提供している。練習前後

には、ご利用者との触れ合いの時間を作っていただき、動物と触れ合える機会の提供にも繋がった。

今年度は虐待緊急保護の短期入所の受け入れ実績は無かったが、次年度も短期入所ベッド、入院者空床ベッドの状況をみながら、虐待等の緊急保護ケースの依頼があった際には迅速に情報を内部共有し、積極的に受け入れを進めていきたい。

(5) ガバナンス体制の強化

定期的に実績記録や個別支援計画書等、各種計画書類の同意を確認しながら進め、適切に書類整備ができていていると考える。今年度は札幌市の指導監査があったが、大きな指摘事項はなく提供しているサービス体制について評価をいただいた。一部改善を求められた事項については適切に対処していきたいと考えている。また、相談係会議を定期開催することで、相談員全員で種々の情報共有や支援方針を話し合うことができ、非常に有用であった。次年度は、個別ケースについて相談員間で検討できる会議の開催も視野に入れながら、ご利用者支援にあたっていきたい。

4. 年間行事報告

行事名	実施日	内 容
常盤公園清掃	5～11月隔週水曜(全6回)	公園清掃及び地域の飲食店での軽食
音楽レク・健身操	全30回(基本的に毎月3回)	専門講師による音楽&体操
陶芸の日	全12回(毎月第3日曜)	陶芸や日用品の工作
事務喫茶	各グループ1回(全5回)	事務員主催による出前喫茶
グループ毎喫茶	各グループ2回(全10回)	グループ合同や単独での喫茶
セラピー犬	多目的ホール練習時	札幌ワンズ所属の犬との触れ合い
イトーヨーカドー 訪問販売	6月3日(日)、12月2日(日)	食品、衣類等の訪問販売
ご当地フェア	4月30日(月)、5月30日(水)	フジフード主催 全国ご当地メニューによる食事
春季合同避難訓練	5月23日(水)	グリーンハイム中心の火災避難訓練
移動動物園	6月12日(水)	移動動物園の動物たちとの触れあい
天ぷらバイキング	6月1日(金)、8日(金)	天ぷらとバイキング形式の食事
焼肉昼食会①	7月13日(金)	焼き肉など屋外での食事
焼肉昼食会②	8月10日(金)	焼き肉など屋外での食事
ハピニス祭	9月2日(日)	地域に参加を呼びかけての法人全体のお祭り
敬老の集い	9月14日(金)	65歳以上の方々を対象にお祝いと会食
秋季合同避難訓練	11月21日(金)	和幸園中心の火災避難訓練
身障協避難訓練	10月14日(日)	市内の障害施設が集まった合同訓練
蕎麦の日	11月28日(水)、30日(金)	フジフード主催 そばの日(打ちたて)
紅白カラオケ大会	11月2日(金)	男女対抗カラオケ大会
寿司の日	11月5日(月)～9日(金)	フジフード主催 生寿司の日(握りたて)
節分	2月3日(土)	年男・年女による豆まき
鍋の日	2月8日(金)、3月8日(金)	寄せ鍋、すき焼きの日
仮装カラオケ大会	3月1日(金)	グループ対抗仮装カラオケ大会

※クリスマス忘年会、餅つき、新春ゲーム大会は、インフルエンザにより中止

5. 事業運営状況及び事業実績

(1) 職員の配置状況

2019年3月31日現在

職名	配置基準数	現員数	備考
施設長	1	1	
事務員	必要数	4	
サービス管理 責任者	2	2	
生活支援員	56.86 (常勤換算)	3	
介護員		56	うち、非常勤8名(パート)
看護師		8	和幸園兼務
理学療法士		1	
医師	必要数	1	配置医
栄養士	1	1	
管理員	—	4	
計	—	83	

(2) 職員配置比率(定員/入居100人、短期4人)

職種	常勤換算(人)	算出基準	配置比率
生活支援員	3.0	96.68人/62.60人 (基準96.68人/1.7=56.87人)	1.54人
介護員	54.0		
看護師	4.6		
理学療法士	1.0		
計	62.6		

※ 基準では前年度実績入居者数を1.7で除した数値以上となっている。

(3) 職員内部研修

No.	開催日	会議・研修名	参加職種
1	2018.4.13	接遇研修委員会(内部)	介護員、相談員、看護師、栄養士、理学療法士
2	2018.6.8	接遇委員会(内部)	
3	2018.8.17	接遇研修①(外部講師)	
4	2018.10.12	接遇委員会(内部)	
5	2018.10.25	虐待防止研修(外部講師)	
6	2018.11.9	接遇研修②(外部講師)	
7	2018.12.14	接遇研修③(外部講師)	
8	2019.1.11	介護技術研修①(外部講師)	
9	2019.2.8	介護技術研修②(外部講師)	
10	2019.3.8	介護技術研修③(外部講師)	
11	2019.3.8	接遇委員会(内部)	

(4) ご利用者状況

① 入退居状況

	2018. 4. 1 在 籍 者	2018. 4. 1 ~ 2019. 3. 31		2019. 3. 31 在 籍 者
		入 居	退 居	
男	52	5	3	54
女	50	7	9	48
計	102	12	12	102

② 退居理由

区 分	男	女	計
死亡	1	3	4
他の施設・病院	2	6	8
家庭復帰（地域移行）	0	0	0
計	3	9	12

③ 月別平均ご利用者数（定員／入居100人、短期4人）

	入 居			短 期		
	2018年度	2017年度	2016年度	2018年度	2017年度	2016年度
4月	99.43%	97.53%	98.30%	102.50%	77.50%	88.33%
5月	99.03%	98.87%	98.87%	90.32%	99.19%	87.10%
6月	98.27%	99.10%	98.83%	94.17%	111.67%	99.17%
7月	95.90%	98.90%	97.81%	100.81%	114.52%	132.26%
8月	95.74%	97.45%	98.94%	97.58%	104.03%	107.26%
9月	94.73%	96.80%	97.30%	105.00%	115.83%	100.83%
10月	96.97%	99.48%	99.26%	100.81%	115.32%	113.71%
11月	97.00%	100.87%	100.30%	100.83%	94.17%	95.83%
12月	95.42%	99.84%	98.94%	71.77%	94.35%	92.74%
1月	94.23%	95.94%	99.90%	101.61%	89.52%	98.39%
2月	96.07%	98.46%	100.46%	107.14%	98.21%	96.43%
3月	97.35%	99.26%	100.58%	107.26%	94.35%	91.13%
計	96.68%	98.54%	99.08%	98.22%	100.75%	100.34%

④ 年齢別状況

	15～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～79	80～	計
男	0	0	10	10	9	15	10	0	54
女	0	1	3	10	11	13	4	6	48
計	0	1	13	20	20	28	14	6	102

⑤ 利用期間状況

	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	25年以上	計
男	5	9	6	12	9	1	1	11	54
女	6	4	5	8	8	2	4	11	48
計	11	13	11	20	17	3	5	22	102

⑥ 障がい支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男	3	9	8	34	54
女	2	4	16	26	48
計	5	13	24	60	102

⑦ ショートステイ（短期）実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2018	2017
男性	10	10	9	11	10	11	11	10	11	13	11	12	129	118
女性	6	7	8	6	8	8	7	7	6	5	8	7	83	90
計	16	17	17	17	18	19	18	17	17	18	19	19	212	208
利用日数	123	112	113	125	123	126	125	121	89	126	120	140	1,443	1,462

実利用人数：26名(2017年度 26名)

⑧ 訪問の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2018	2017
延べ人数	89	97	77	75	88	70	60	69	60	53	54	59	851	874
実ご利用者数	41	44	39	31	39	35	34	35	39	35	31	33	436	435

年度中に訪問のなかったご利用者：19名

⑨ 外出状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2018	2017
男性	14	13	14	9	15	8	11	11	2	3	7	11	118	140
女性	10	8	10	13	14	8	14	17	10	4	6	15	129	115
計	24	21	24	22	29	16	25	28	12	7	13	26	247	255
実人員	18	19	24	20	25	15	23	24	12	7	12	23		

実人数 65名(2017年度 58名)

⑩ 外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2018	2017
外泊延人数	4	9	4	2	8	4	4	3	7	5	2	4	56	46
外泊延日数	13	27	5	8	10	48	24	4	11	11	1	3	165	185

⑪ 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2018	2017
件数	56	63	60	52	66	51	78	64	39	56	47	40	672	757
実人数	40	44	40	35	39	36	50	44	28	39	35	45	475	501

⑫ 入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2018	2017
入院者	5	4	7	10	9	9	5	10	9	15	11	9	103	71
延日数	64	35	79	175	154	110	78	145	147	168	131	132	1,418	905

⑬ 事故報告件数

	事故件数	ヒヤリハット件数	施設外医療機関対応 (件)
転倒・転落	49	204	1
服薬	53	226	7
異食	0	4	0
介護	12	154	0
誤嚥	3	12	1
その他	37	346	0
計	154	946	9

⑭ 苦情受付件数

	件数
食事に関すること	0
設備に関すること	0
行事・活動に関すること	0
その他	0
計	0

(7) ボランティア活動状況

行事・活動	所属・団体	人数	備考
傾聴ボランティア	地域ボランティア	1	週に2回程度ご利用者との交流
ボランティア実習	札幌養護学校もなみ学園分校	10	施設内トイレの清掃体験(年2回)

3. 特別養護老人ホーム 和幸園

1. 総括

特別養護老人ホーム和幸園は、法人理念に基づき、人権の尊重を基本とし、ご利用者自身がその人らしい生活を主体的に過ごせるように、介護の専門性を高め、『水分・常食・運動・座位排便』の4つの基本ケアを中心とする自立支援に取り組んできた。それにより職員がご利用者の潜在的能力を発見する視点を持ち、ご利用者の生活意欲の向上、ご家族の満足度向上につながる様々な取組みを実践することができた。一方で2017年度に続き、年間で多くの退職者が出てしまい、人員不足による影響が顕著に生じる事態となった。

その中で職員育成や定着における課題、多くの職員が入れ替わる中で基本ケアに関する理解の不充分さなどの課題が表出している。より良いサービスを提供し、和幸園が成長、発展していく為には職員が定着し、モチベーションを高く持って生き活きと働けることが重要である。次年度も引き続き職員育成や、基本ケアの浸透、理解などの課題の改善に力を入れていきたい。

2. 具体的な取り組み

(1) 利用者視点

- ① 終の棲家として和幸園で過ごせて幸せだったと思えるような生活を送っていただけるよう支援していく。協力医の協力の元、ターミナルケアを継続して行った。ご本人・ご家族の希望により、11名のご利用者が、和幸園で最期まで過ごすことができた。また、普通の生活の継続を目指し、行事食の日や外出機会などの行事による楽しみも継続的に提供することができた。
- ② ご利用者が、年末年始を始め、ご家族の都合に合わせての外出、外泊を行うことができた。
- ③ 「自立支援介護web研修」に毎月15～20名の職員が参加し、事例の取り組みも誠実に行ってきた。今後も、基本ケアの理論を適切な実践に結びつけて支援ができるようにしていく必要がある。
- ④ 基本ケアである「水分」、「常食」、「運動」、「座位排便」について、個別に目標を決め取り組み、ユニット会議・ケース会議では、多職種で利用者ごとに、検討・見直しを行った。
- ⑤ 常食化については、2019年3月には常食常菜の割合が77.8%となった。常食化の取組みにより、入居時に粥食等だった多くの方々の食事を米飯に変更することができた。その成果として、多くの方々に外出レクや敬老会、クリスマス会などで普通の食事を楽しんでいただくことができ、ラーメンや生寿司、てんぷらの行事も恒例となってきた。
- ⑥ 排泄については、便秘の解消が課題であることがみえ、その改善に取り組んできた。一部のユニットからは自然発生的に「排便についてもっと学びを深めなければ!」という声があがり、2019年の1月から『快便勉強会』という自主的な勉強会が発足し、看護師からも1名参加していただき、同じ方向性を持って排便のケアに対する知識を蓄える努力を行っている。

⑦ 歩行については、人手と時間を要することから、日によってあるいは2名での歩行介助を要するようなご利用者によってはあまり取組めていない現状がみられていた。しかしながら、歩行または運動の支援を行うという職員の意識は浸透しているため、今後、どの様にして継続的に行っていけるかを検討していきたい。

⑧ 褥瘡の減少

褥瘡予防委員会を中心に、予防として日々の体位交換や除圧、福祉用具の利用、皮膚状況の観察、失禁の軽減に取り組んだ。また、皮膚トラブル発生時も褥瘡介護計画書を作成し、チームでの迅速で適切な対応により、悪化させずに早期に治癒させることができている。また、予防のために、理学療法士によるご利用者ごとに必要な介助方法の指導や外部講習会を受講した職員による適切な介助方法を習得するためのポジショニング研修を行った。また、その研修の中で、移乗シートや移乗グローブを使つての除圧の方法も伝達し、日常的に福祉用具も使うことを習慣化することで、介護技術の向上も図ることができた。

⑨ 介護事故について

事故件数は前年度より増加となったが、病院へ緊急的に受診する件数は減少傾向となった。事故種別では今年度「転倒・転落」による事故は少なくなったが、「服薬」に関する事故が増加してしまう傾向にあった。「転倒・転落」では職員が他のご利用者の介助に入っている際に転倒してしまい、骨折や脱臼・打撲などの怪我に至った事故があったため、転倒・転落しても被害を軽減できるよう、日々の職員同士の見守りに対する声掛けの実施やユニット内・居室内の環境を整備し未然に事故を防いでいくことも必要である。

「服薬」に関しては前年度より20件程多くなってしまった。事故の内容的には「飲ませ忘れ」や「床に薬が落ちていた」などが多く、その都度事故対策会議にて対策を講じていたが増加してしまった。今後も継続して服薬時の3点確認の実施や服薬チェック表の活用・介護職員同士の声の掛け合いなどを行ない、服薬事故を未然に防いでいく。その他にも外傷やあざ・皮膚剥離などの事故発生があるため、事前に決められたルールを守ることや事故対策を職員がしっかり理解し守ることで事故を減らしていけるように努めていく。最後に、今後はヒヤリハットを多く発見し、ユニットや協力ユニットなどと情報共有していき、未然に事故の芽を摘んでいく。また、ヒヤリハットに対しても何故ヒヤリハットに上がったのか、どのようにしたらヒヤリハットが事故に繋がらないかも考えてもらい、事故件数の増加を防いでいく。

⑩ 感染予防

2018年12月に一度インフルエンザが一部のユニットに蔓延し、ほどなく終息したが、年が明けて3月に再び一部のユニットにおいてインフルエンザが蔓延してしまった。ユニットにおいて、1名のご利用者が感染すると次々とそのユニット内で広がっていく傾向にあり、マニュアルに沿った対応を忠実に守り、感染拡大の防止はもとより、ウィルスを持ち込まない対策も一層厳重に実施していくことを要する。一方、ノロウイルスの発生はなく、嘔吐が発生したときにはマニュアルに沿って迅速な対応を行った。また、嘔吐発生時のマニュアルを作成し、食事面での配慮も講じられた。

⑪ 身体拘束ゼロや虐待防止

身体拘束に関しては一部認識の誤りから一時的に身体拘束を実施してしまうという事例が発生し、施設として虐待として認知し、各種対応と再発防止策に取り組んだ。その他には、虐待を疑われるようなことも含めみられなかったが、ご利用者に対する声掛けや態度、姿勢などが虐待に発展すること等に充分注意して、職員同士でも気づいたらお互いに声を掛け合い、そのような環境にならないように努めていく。

⑫ ユニットケアの良さが生かされるような個別ケア体制の構築及び提供

馴染みの職員により、ご利用者ごとの特徴を把握し介護を行えた。ユニット会議やケース会議では、多職種で「基本ケア」の視点とともに、その方らしさの視点を大事にしたケアを実践できた。そのため、多くのご利用者に趣味活動などで好みの娯楽に参加していただくことで、日常生活の活性化にもつながった。また、ご家族等も気軽に訪問され、開かれた施設として運営することができた。

⑬ 法人の事業計画の5つの視点を基に、“ユニット事業計画”を設けてユニットの独自性を重視し、年間を通して事業計画を意識しながらユニット運営に取り組んだ。ユニット毎に様々な取り組みを行い、ご利用者の笑顔を引き出し、和幸園で生活を送る喜びや楽しさを実感して頂いた。具体的には、温泉一泊旅行やユニット単位のクリスマス会、今までの予算では計画できなかった場所への外出会、ターミナルの方の希望を叶えたメニューで行ったユニットの食事会、ユニット独自の装飾で季節感を体感して頂くなど職員、ご利用者共に楽しんで取り組むことができた。

(2) 財務視点

- ① 年間稼働率について、目標稼働率（入居97.90%、短期85.00%）に対して、本年度は入居97.17%（116.6名）、短期95.36%（19.3名）の結果となり、入居は目標達成率にわずかに及ばなかった。入居とショートステイの総合稼働率では96.91%の結果となった。総合的にみると年間目標稼働率は達成されるも、昨年度よりも稼働率は低下しており、長期入院時の空床活用や速やかな退所要請の連絡調整等に対する課題が残った一年となった。
- ② 入居では、加算取得においては、昨年度同様に経口維持加算Ⅰ、Ⅱの算定、2018年4月より新たに創設された褥瘡予防マネジメント加算、排せつ支援加算を該当者に対して計画的に算定することができた。一方で、度重なる制度改定への対応かつ安定した経営基盤の構築における施設体制の整備として、今後も各セクションへの明確な情報周知や協力依頼を徹底する。また、ターミナルケア体制の充実を図るため、提携医の理解とご家族との信頼関係をより強化し、安心して最期まで暮らしていただけるような環境を維持する。短期入所では、昨年度よりも週末利用のみならず、平日利用の促しや積極的な受け入れを行ったことで、どの曜日においても17名以上の利用状況となる偏りが無い安定した運営となった。また、退所後のフォローを欠かさず、リピーターの確保につながるよう、ケアマネやご家族との積極的な連絡調整や空き室の呼びかけ等を行い、隙間のないベッドコントロールを実施することができた。そして、ロングショート利用者の入所時期を把握し、先見性かつ計画的に受け入れることができ、これらの対応が現在の稼働率に繋がっていると考えられる。
- ③ 理学療法士・看護師との連携により、個別機能訓練を生活リハビリの視点で実施し、入居者のQOLを高め、個別機能訓練加算取得を維持した。また、管理栄養士との連携により、個別に栄養マネジメント計画書を作成し、日々の栄養状態の観察・適宜介入、個別性に基ついた食事提供方法の検討、及び食事形態の変更等の調整を図り、栄養マネジメント加算取得を維持した。
- ④ 協力医療機関、看護師等との連携により、和幸園で最期の時を過ごすことを望むご利用者やご家族の希望に沿い、ターミナルケアを提供。2018年度は11名の方がターミナルケアにより最期を和幸園で過ごすことができ、終末期の方の入院を減らすことにつながっている。
- ⑤ 訪問歯科医との連携により、経口摂取が困難なご利用者に対しても、あきらめずに誤嚥性肺炎を予防しつつ、より安全に経口摂取できることを目標に支援することができたことで誤嚥性肺炎などによる入院が減少した。

- ⑥ 電気、水道、光熱費、日用品費等の節減を、継続して取り組んだ。

(3) 人材確保と育成

- ① 職員の充足及び定着率向上については、職員募集など随時行い、徐々に充足されつつあったが、継続して募集が必要な状況であった。今後も、より長く働ける職場の環境作りをしていく必要がある。
- ② 施設長による認知症研修も実施し、認知症ケアについての学びにより、認知症に対する介護技術の向上ができた。
- ③ 執行部職員により「介護福祉士」資格取得のための講習会を実施し、受験した職員全員が合格できた。
- ④ プリセプター制度及び新人研修等を実施した。新人研修により基本的な介護技術の向上ができた。
- ⑤ 外部研修で学んできたことを事業所に持ち帰り、職員への伝達研修を行った。
- ⑥ ホームページやFacebook お便りなどにより、和幸園の取り組みを広報することで、知っていただくことができ、職員の応募に繋がった。

(4) 地域貢献

- ① 「介護なんでも相談」が10年以上続き、法人の地域貢献活動として定着している。
- ② 介護福祉士・社会福祉士・介護職員初任者研修等の実習機関として実習生の受け入れを行った。
- ③ 幼稚園、地域のボランティア、日赤ボランティアの協力を継続して仰ぐとともに、地域のお祭りなどにも、外出レクなどで参加した。
- ④ ハピネス祭等、施設開放時には、地域の方々にご案内を行い、お越しいただいた。
- ⑤ 地域で認知症高齢者の介護をする家族を対象に、BPSDの減少を目的とし、「認知症状改善塾」を開講した。2015年の開始より第7期の開催となった。改善塾の開講により、参加者同士のつながりや精神的な部分のケアにも繋がり、和幸園で実践した基本ケアのノウハウを伝えることができる機会ともなった。
- ⑥ 社会福祉法人減免制度も継続して行った。

(5) ガバナンス体制の強化

- ① 当施設は加算算定項目が比較的多いが、算定要件にしっかりと沿うよう必要書類等の整備につき定期的に確認を行っている。
- ② 介護保険制度に則して、契約、サービス提供及び請求が継続できた。
- ③ コンプライアンスに基づいたケアプランの作成とご家族への説明・同意を行った。

3. 事業運営状況及び事業実績

(1) 職員の配置状況

2019年3月31日現在

職名	配置基準数	現員数	備考
施設長	1	1	
事務員	必要数	7	非常勤1名
生活相談員	2	4	介護支援専門員兼務1名
介護支援専門員	2	2	生活相談員、介護職員と兼務
介護員	40 (常勤換算)	114	非常勤職員53名
看護職員 (看護師)	1	11	グリーンハイム兼務7名、非常勤2名
医師	必要数	1	配置医
機能訓練指導員	1	2	非常勤職員1名
管理栄養士	1	1	
管理員	必要数	1	
外勤調整員	必要数	2	2名事務兼務
計		146	

(2) 介護・看護職員配置比率 (定員/入居120人、短期20人)

職種	常勤換算 (人)	算出基準	配置比率
介護職員	91.6	140人/97.4人 (基準140人/3=46.6人)	1.437人
看護職員	5.8		
計	97.4		

※ 基準では入居者数を3.0で除した数値以上となっている。

(3) ご利用者状況

① 入居者状況

	2019年3月31日	入居者	退居者	2018年3月31日
	在籍者			在籍者
男	22	10	9	21
女	96	21	23	98
計	118	31	32	119

② 月別平均入居者数

	入 居			短 期		
	2018年度	2017年度	2016年度	2018年度	2017年度	2016年度
4月	96.64%	98.53%	98.17%	101%	89.17%	86.58%
5月	96.56%	98.20%	98.74%	100%	98.87%	81.85%
6月	96.36%	99.56%	99.25%	94.5%	97.17%	95.00%
7月	97.47%	98.47%	99.01%	88.23%	96.77%	90.65%
8月	98.06%	97.34%	97.31%	102.26%	98.55%	99.35%
9月	97.78%	97.69%	98.03%	90.83%	102.5%	95.67%
10月	98.55%	97.12%	99.25%	90.65%	99.52%	93.39%
11月	97.89%	97.03%	99.45%	92.67%	113.5%	102.98%
12月	98.09%	99.06%	98.33%	92.26%	96.29%	100.88%
1月	95.40%	97.66%	97.66%	98.55%	93.55%	88.53%
2月	97.17%	94.97%	97.12%	96.96%	104.29%	99.64%
3月	96.08%	96.85%	96.69%	96.45%	104.84%	92.26%
計	97.17%	97.71%	98.25%	95.36%	99.59%	93.87%

③ 退居理由

2018年度	男	女	計	2017年度	2016年度
死亡	2	15	17	14	17
長期入院	7	7	14	8	12
家庭引取	0	0	0	0	0
他施設へ移動	0	1	1	0	2
計	9	23	32	22	31

④ 年齢別入居者状況（2019年3月31日現在）

	65歳未満	65～74	75～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	1	2	10	3	4	2	0	22
女	0	5	22	27	25	15	2	96
計	1	7	32	30	29	17	2	118

⑤ 入居者の入居前居所状況（2018年4月1日～2019年3月31日）

	男	女	計	2017年度
自 宅	6	13	19	11
介護老人福祉施設	1	1	2	0
介護老人保健施設	2	4	6	3
介護療養施設	0	0	0	0
医療機関	1	3	4	6
他の福祉施設	0	0	0	3
計	10	21	31	23

⑥ 月別入院状況（月延べ人数）

入院状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2017
入院者数	3	4	5	2	2	1	3	3	6	4	2	6	41	41
入院延日数	63	83	86	45	42	4	14	45	76	71	24	70	623	645

⑦ 入居者の要介護度（2019年3月31日現在）

要介護度 性 別	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	計
男 性	0	0	6	9	7	22
女 性	0	2	20	40	34	96
計	0	2	26	49	41	118

⑧ 事故報告件数

	件数		施設外医療機関対応（件）	
	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度
転倒	107	140	9	23
転落				
あざ	50	41	0	0
外傷	38	28	1	0
服薬	62	41	0	0
異食	3	2	0	0
誤嚥	7	9	1	0
皮膚剥離	22	16	0	0
その他（ヒヤリハット含む）	27	17	1	5
計	316	294	12	28

⑨ 苦情受付件数

	件数	
	2018年度	2017年度
介護等に関すること	3	6
設備に関すること	0	0
職員に関すること	0	1
その他	1	1
計	4	8

4. 年間行事報告

日程	内容	備考
4月24日・25日・26日	ラーメンの日	会場にて好きなラーメンの味を注文できる行事
5月31日	和幸園運動会	フロア対抗の玉入れや歩行器競争などの種目を実施
6月18日・21日・22日	天ぷらの日	会場にて好きな天ぷらを注文できる行事
7月6日	ジンギスカン	屋外にてジンギスカン
8月7日	七夕・夏祭り	七夕の季節感を感じる事と、夏祭り（盆踊り・ミニゲームなど）を実施
8月27日	1条・夏祭り	ショートステイ単独での行事で、ご家族にも参加いただき、職員の出し物や出店形式での夕食を提供
9月15日・16日・17日	敬老祭	敬老をお祝いし、祝寿対象者などへ記念品の贈呈や職員による催し物を披露
10月11日	秋の美味しいもの祭	秋の味覚（秋刀魚やじゃがいもなど）を炭火焼きし、秋の味覚を感じて頂く
11月15日	芋煮会	のっぺい汁や芋料理を調理し、召し上がって頂く
12月13日・14日	クリスマス・忘年会	クリスマス・忘年会を合わせて実施 クリスマスや忘年会にちなんだ催し物など披露
12月27日	餅つき	ご利用者と職員と一緒に餅つき
1月24日・25日	のど自慢大会	ご利用者個人戦でのカラオケ大会
1月17日・21日・23日	寿司の日	会場にて好きなお寿司を注文できる行事
2月1日	節分	年男・年女の方により豆撒き
2月14日	鍋の日	すき焼き・寄せ鍋の日。
3月3日 午前・午後開催	ひな祭	ひな祭をお祝いし、催し物を披露
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・森の幼稚園 園児来園（6月・8月・9月）・日赤ボランティア ・ギターボランティア・サックスボランティア・家族会、利用者懇談会 ・イトーヨーカドー訪問販売（年3回～4回）・ユニット外出行事・球根掘り 	

4. 看護課

1. 事業報告総括

(1) 利用者視点

- ① ご利用者には、血圧測定や処置や体調変化時などの日々の関わりの中で、積極的に挨拶をしながら、コミュニケーションを図った。ターミナル期のご家族とは担当看護師を明確にすることで信頼される関係の構築に努めた。
- ② 配置医師や協力医療機関との円滑な連携を図ることができた。年末年始のインフルエンザ蔓延時にも、配置医や薬局の協力のもと、ご利用者の病院受診の負担を軽減できた。今後にご利用者の不利益にならない対応を心掛けていく。協力医療機関とは、入院相談を含め、連携の強化を進めていきたい。
- ③ ターミナルケアについて、和幸園では年間11名対応し、定期的な会議や評価等を他職種協働で取り組むことができた。但し、ユニットスタッフは異動や入退職もあり、経験の少ない職員もいることから、日々のケアの充実が課題と考えている。また、グリーンハイムでは、今年度は2名のターミナルケアを対応した。癌の終末期で介護員も不安な中、ご利用者本人の意向を大切に取り組み、学びは多かった。今後にご利用者のニーズに合わせ、可能な範囲でのターミナルケアに取り組んでいきたい。
- ④ 虐待、事故防止、感染症、褥創委員会へ参加し、リスク管理に努めた。例年に準じ、感染症研修を開催したが、入居施設でインフルエンザが蔓延してしまった。今後は、職員全員への知識と予防行動の実践が確実にできる様にマニュアル等の見直しと教育に重点を置きたい。また、薬の事故に関しては、セットミスによる誤薬があり、事故防止の徹底に取り組んでいく。

(2) 財務視点

- ① 余剰在庫の無いように物品管理を行い、適正量の購入を行った。
- ② 緊急のショートステイに対しても、ご利用者の安全に配慮し情報等が少ない中でも柔軟に対応した。

(3) 人材確保と育成

- ① 外部研修には年間計画に沿って参加したが、内部研修の参加率は低かった。
- ② 5～7日間の連続休暇取得は、職員個々の希望により年間計画を作成し、スムーズに取得することができた。次年度も継続していく。
- ③ 担当を明確にすることで責任感が高まった。次年度は委員の担当を変更し、協力し合える環境を作る。
- ④ 将来的な体制整備のため主任を1名増員した。今後は、夜勤可能な看護師の採用を検討していく。

(4) 地域貢献

例年通り地域のゴミ拾いやお祭りの救護班として地域活動へ参画した。

(5) ガバナンス体勢の強化

- ① 組織の理念・方針を全員が理解し、行動できるように取り組んでいく。具体的には、今後行動指針を参考にしていきたい。
- ② 書類の保管や廃棄等については、法・制度に基づき適切に行う。

2. 医療業務実績

和幸園は12月と3月にグリーンハイムは12月にインフルエンザが集団発生したため、状態観察者が多くなった。また、インフルエンザ罹患後に体調不良となり入院者も発生した。ユニット閉鎖をした影響で他科の往診の中止やグリーンハイムではショートステイの中止などの影響が見られた。配置医の協力で受診せず、施設内での治療ができたため、ご利用者の負担や送迎等の施設・職員の負担が軽減できた。

和幸園は排便コントロール目的での浣腸の件数が増加し処置件数が増えている。早めにご家族に施設の看取りについて説明することで、ターミナルケアの件数が増加したと考える。

グリーンハイムは、胃ろう栄養のご利用者が6名と増え、他に短期入所ご利用者も2名受け入れているため、負担が多くなっている。また、インシュリン注射が必要なご利用者も4名おり、医療依存度の高いご利用者の増加への対応に苦慮している。業務の見直しを行ったが、安全に配慮した体制も検討する必要がある。入居者の高齢化に伴い、施設内でのターミナルケアや入院の増加、退居となるケースが増え、新規入居者も増えた。

和幸園 2018年度															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
状態観察者	日勤	357	358	480	386	442	389	359	383	484	405	384	497	4924	5311
	短期	116	79	135	115	128	126	198	96	200	118	91	125	1527	1204
	夜勤	6	7	18	7	4	3	1	6	7	4	4	7	74	88
尿が管理(人)		1	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	35	17
胃瘻管理	入所	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	24
インシュリン等(人)	入所	2	2	2	3	3	2	2	3	2	3	2	2	28	34
処置	人数	39	46	35	36	41	33	42	32	40	24	27	25	420	368
	件数	338	269	289	311	300	298	346	286	378	252	209	240	3516	3071
ターミナル		1	1	1	1	2	1	0	0	1	1	1	1	11	8
入院者		3	4	5	2	2	1	3	3	6	4	2	6	41	38
他機関受診		41	40	41	32	43	43	44	42	40	32	40	39	477	524
ショート利用		68	75	74	80	81	73	75	66	63	65	65	71	856	991
ときわ往診		19	19	19	19	19	20	19	18	18	18	18	16	222	262
やまはな皮膚科往診		1	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	7	10
川沿皮膚科往診		165	112	162	157	138	156	153	159	56	156	156	67	1637	2011
南札幌脳神経往診		39	48	67	52	65	31	44	57	49	42	52	72	618	638
待機出勤		5	6	9	5	1	2	1	4	6	2	2	3	46	46

グリーンハイム2018年度															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
状態観察者	日勤	209	285	215	285	261	265	259	227	392	278	193	298	3167	2599
	夜勤	207	235	182	199	207	221	252	218	394	251	218	320	2904	2731
尿が管理(人)	入所	12	13	11	10	10	9	9	10	10	10	11	11	126	129
胃瘻管理(人)	入所	3	4	4	4	4	5	5	6	5	6	6	6	58	37
インシュリン		1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	4	4	23	12
処置	人数	13	15	13	15	15	18	15	17	17	14	20	18	190	167
	件数	231	242	259	278	282	274	360	379	321	290	255	344	3515	2544
短期処置(件数)		11	21	17	15	17	12	20	17	15	19	17	18	199	232
入院者		2	2	6	4	3	6	3	8	6	9	7	3	59	41
他機関受診		58	62	60	53	64	50	63	55	35	59	41	58	658	760
ショート利用		33	36	35	36	34	34	34	35	25	36	37	41	416	401
ときわ往診		23	23	22	22	21	20	21	21	21	20	21	22	257	290
やまはな皮膚科往診		19	25	24	23	21	26	35	24	38	22	31	30	318	254
川沿皮膚科往診		65	65	66	67	67	66	66	33	28	65	38	67	693	712
南札幌脳神経往診		32	35	33	32	23	14	35	34	39	33	22	22	354	309
夜勤者受診の付添														0	4
施設内での死亡			1		1									2	2

5. 栄養課

(1) 利用者視点

- ・委託業者所属栄養士、調理員との連携を密にして、ご利用者・施設の要望として特色あるイベントを実施できた。
- ・定期的な全体ミーティングを継続して行うことができた。
- ・栄養ケアマネジメントを行い、個々人にあった栄養ケアの提供を遂行した。

(2) 財務視点

- ・加算の確実な算定を行うことができた。
- ・追加（栄養）食品を無駄の無いよう支出管理の徹底に取り組んだ。
- ・物品の購入、修理、行事等を、予算に合わせて計画的に実施できた。

(3) 人材確保と育成

- ・研修、勉強会は各自のスケジュールに合わせて参加できた。今後も積極的な参加をして、最新の情報の収集に努める。

(4) 地域貢献の推進

- ・入居者、ショートステイ、デイサービスご利用者、ご家族、地域の方々の栄養相談を実施した。

(5) ガバナンスの強化

- ・本年度は両施設でノロウイルス疑いの発生があり、迅速に対応した。実際に運用した際の経験を活かし、より実践的なノロウイルス対策マニュアルを策定するための見直しを実施中である。
- ・適宜他職種との連携を図り、栄養ケアマネジメントを実施している。

(6) その他取組、行事

- ・食事形態、食事のおいしさの向上など、委託業者と適宜相談し実施しており、さらなる向上を目指す。
- ・ご利用者の前で調理をするイベント（寿司、てんぷら、手打ちそば）は好評であった。今後も実施の継続し、また他のイベントも考案していきたい。

【グリーンハイム】

- ・入居者の体調に応じた食事、間食に関する内容等、ご本人に納得して頂けるよう寄り添いながら、栄養計画書を作成し遂行した。
- ・個々の体調、体型を考慮した良好な排便コントロールに取り組んだ。

【和幸園】

- ・排便コントロール対策に取り組んだが、思うような結果は出ていない。栄養面からのアプローチでは限界があるため、他職種との連携を強化し、改善を目指して行きたい。

(1) 一食平均食数

区 分		食数
グリーンハイム	入居	100
	短期入居	3
生活介護事業所グリーンハイム		14
和幸園	入居	115
	短期入居	20
和幸園デイサービス		38
計		290

(2) 食事形態

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
常食	40	86	126
やわらか食	30	17	47
ゼリー食	5	11	16
胃婁	3	1	4

(3) 特別食

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
糖尿病	13	15	28
脂肪制限	7	1	8
心臓病	1	4	5
腎臓病	2	2	4
貧血	0	0	0
低残渣食	1	1	2
計	24	23	47

(4) 年間行事実績及びポイントメニュー

月	行 事	ポ イ ン ト メ ニ ュ ー
4	和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯 各地のご当地メニュー
5	子供の日(5日) 和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯、筑前煮、さくら漬け、水ようかん ちらし寿司 各地のご当地メニュー
6	和幸園デイサービス誕生会 和幸園ジンギスカン・チャンチャ ン焼き グリーンハイム・和幸園 天ぷらバイキングの日	赤飯 ジンギスカン・チャンチャン焼き 天ぷら(えび・きす・なすび等)、うま煮、フルーツ、サラダ 等
7	土用の丑の日 グリーンハイム焼き肉昼食会 和幸園デイサービス誕生会	うなぎちらし、すまし汁、 焼き肉 ちらし寿司
8	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム焼肉昼食会 グリーンハイムデイサービス焼き肉	赤飯 焼き鳥 焼き肉
9	敬老の日 グリーンハイムデイサービス焼き肉 和幸園デイサービス誕生会	赤飯、煮しめ、焼き魚、てんぷら、茶碗蒸し、なます、お吸い 物 焼き肉 ちらし寿司
10	和幸園 秋の味覚祭 和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム蕎麦の日	さんまの炭火焼き、ジャガイモ、サツマイモ、かぼちゃ、豚汁 赤飯 手打ち蕎麦を楽しむ
11	グリーンハイム寿司の日 和幸園芋煮会 和幸園デイサービス誕生会	握り寿司(マグロ、サーモン、カレイ、ツナマヨ、とびっこ、 エビ、ホタテ、イクラ、玉子、いなり) のっぺい汁、栗ごはん、鮭ときのこのホイル焼き ちらし寿司
12	グリーンハイム・和幸園クリスマス 会 餅つき大会 大晦日(31日) 和幸園デイサービス鍋の日	オードブル・ケーキ等 納豆餅、お汁粉 年越しそば、黒豆等 寄せ鍋
1	元旦(1日) 三が日 七草(7日) 鏡開き グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園寿司の日 和幸園デイサービス誕生会	おせち料理 雑煮、お寿司等 七草(七草粥) お汁粉 寄せ鍋・すき焼き 握り寿司(マグロ、サーモン、エビ、イクラ、玉子、いなり等) ちらし寿司
2	節分 グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	太巻き、いなり 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
3	ひなまつり(3日) お彼岸 グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	ちらし寿司、すまし汁(アサリ、三つ葉)、炊き合わせ、イチ ゴ饅頭 手作りおはぎ 寄せ鍋・すき焼き ちらし寿司

6. 訓練

1. グリンハイム機能訓練

(1) 事業報告総括

- ① 個別評価を行い、リハビリテーション実施計画書を作成し、ご本人またはご家族のニーズに合わせて関節可動域訓練（ROM ex.）、筋力訓練、日常生活動作（ADL）、訓練や平行棒やトランスファー手すりなど機械器具を用いた自主訓練なども盛り込み実施した。また、日々の業務やご利用者の経過記録の整備を行った。
- ② ご利用者の生活状況などを把握した上で、継続可能な生活リハビリの助言・提案を行った。
- ③ 車いすや補装具などを使用し、安全・安心な生活を維持し、有意義な時間を過ごせるように支援した。
 - ・車いすカンファレンスを定期的に開催し、個々のニーズに合わせた修理や各種申請を支援した。
 - ・義肢装具カンファレンスを不定期に開催し、個々のニーズに合わせた修理や各種申請を支援した。
- ④ ご利用者個々のニーズに合わせた福祉用具（ポジショニング枕・福祉靴・自助具など）に関する助言・提案を行った。
- ⑤ ご利用者の各種診断書類（医師意見書・補装具費申請書類など）の理学療法評価部分の作成を行った。
- ⑥ 個別訓練のみならず、集団訓練も継続して行い、他ご利用者との関わりを持つ機会を提供し、社会性を保持するよう支援した。ご利用者個々の特性を活かし、役割を持てるよう支援した（体操講師役・参加者人数数え等の運営補助等）。
- ⑦ 生活リハビリにつながる介助方法を介護職員と検討し、助言・提案を行った。
- ⑧ ご利用者個々の状況に合わせた創作活動（カレンダー・折り紙作品・塗り絵・貼り絵など）を提案し、作品の作製を行い、ご本人の希望に合わせて展示などを行った。
- ⑨ 日常生活動作（移乗動作やトイレ動作など）の介助法や適切な動作などを実際場面でのデモンストレーションを交えて助言・提案を行った。
- ⑩ 転倒・転落事故などの検証や防止策検討を他職種協働で行った。
- ⑪ 福祉用品や介護技術の再検討などを協力して行った。
- ⑫ 移乗方法の検討なども行い、ご利用者・介護者に負担が少ない方法や介護用品（スライディングシートやボード・グローブなど）を提案した。
- ⑬ 施設で行っている接遇・虐待防止の研修会に参加した。
- ⑭ ターミナルケアにチームの一員として参加し、ターミナル期のポジショニングなどを検討した。

(2) 参加者年間集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
運動療法	集団訓練	38	40	56	40	44	42	37	47	27	33	28	57	489
	個別訓練	131	130	128	137	142	74	131	119	68	110	120	127	1,417
参加総延べ人数		169	170	184	177	186	116	168	166	95	143	148	184	1,906
リハ日数		18	19	19	19	20	14	19	20	14	17	16	18	213
1回平均延べ人数		9.4	8.9	9.7	9.3	9.3	8.3	8.8	8.3	6.8	8.4	9.3	10.2	8.9

※集団訓練は、本館ご利用者を対象に月2回ペースで4グループ順番に食堂を借りて車いす座位でできる運動を集団で行った。西館でも同様の運動を週1回ペースで食堂を借りて行っている。そして、新たに反応引き出しを主目的としたかわりを持つ機会として、集団での活動設けた。

※2018年9月 地震による影響、2018年12月～2019年2月 インフルエンザ蔓延により、フロア閉鎖期間があり、個別・集団訓練とも休止があった。

2. 和幸園機能訓練

(1) 事業報告総括

- ① 個別機能訓練計画書及び実施表の作成、実施状況確認、ファイルの記入など記録の整備を実施した。
- ② 自立支援・オムツゼロの推進による離床時間の拡大に伴い、車いすや椅子座位での安全なシーティングの検討を行い、座や背クッションの調整と必要に応じて姿勢改善のためのクッションの検討を行った。必要に応じて業者とシーティング調整を実施した。
- ③ 必要に応じて個別の対応を実施し、身体機能・残存機能の向上につながる訓練を行った。
- ④ 褥瘡対策のために外部研修へ参加した。臥床時のポジショニングを検討し、体交の参考として個別の資料を作成し介護員へ伝達した。褥瘡委員会や現場で動作指導などの伝達も実施した。
- ⑤ 摂食・嚥下困難者において、嚥下状態の確認や食事動作（スプーン）の検討、口腔マッサージの実施及び介護場面での口腔マッサージ資料の作成を行った。また、食事前に嚥下体操や発声練習を行いユニットの職員に伝達した。
- ⑥ 経口維持加算のための食事評価を実施した。
- ⑦ 車いす等の福祉用具の検討を実施した。車いすクッションや車いすの修理依頼や個別購入に対する物品の機能選択の実施をした。靴に関する相談に応じ、購入にあたって靴選択や注文・納品後の適合チェックを実施した。
- ⑧ トイレ介助方法の検討、トイレ介助の補助など実施した。
- ⑨ 移乗介助方法の指導、スライディングシートやポジショニンググローブなどの福祉用具の使用法の指導を行った。
- ⑩ 集団でのレクリエーション、体操、ゲーム、カラオケ、DVD（映画や歌）鑑賞、麻雀クラブ（月1回）のど自慢大会や特技発表会などの行事を実施した。また、1条のショートステイユニットで月2回OT中心による集団レクを実施した。
- ⑪ DVD貸し出しシステムを維持し、映像ソフトを増やした。
- ⑫ ご利用者の生活歴などを把握し、その方にあった余暇活動を提供した。また、季節に合った創作活動を提供する場としてクラブ活動の実施をした。
- ⑬ 下肢装具の作製及びチェックアウト、修理を専門業者と共に評価・実施した。
- ⑭ 新人研修として、移動移乗の座学および実技の担当を行い、新人職員の指導を実施した。
- ⑮ 各行事の設営や準備・実施の協力を積極的に介入した。
- ⑯ ユニット外行事の同行（外出レクや買い物レク同行、温泉入浴介助）を実施した。

(2) 参加者年間集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別 訓練	入居	83	63	64	53	76	39	70	64	30	36	38	12	628
	内メドマー	3	2	2	2	3	2	1	1	2	1	1	0	20
	ショート	16	23	15	18	13	20	19	20	23	20	23	21	231
	1日平均人数	5.0	4.3	4.6	3.4	3.6	3.3	4.2	4.4	3.8	2.9	3.4	3.0	3.9
集団 訓練	入居	384	334	140	482	322	508	536	404	195	283	351	76	4,015
	ショート	79	92	58	114	86	113	108	95	45	71	70	27	958
	1回平均人数	51.4	47.3	33.0	49.7	45.3	56.5	49.5	45.4	40.0	44.3	46.8	34.3	42.8
リハ日数		20	20	17	21	25	18	21	19	14	19	18	11	223
参加延べ人数		562	512	277	667	497	680	733	583	293	410	482	136	5,832

※個別訓練：個別の対応を実施。基本的な身体機能維持のための関節可動域訓練、筋力維持向上訓練、

座位保持、座位や立位でのバランス訓練、歩行訓練、呼吸訓練、ADL訓練としては、移乗動作訓練、起居動作訓練、車いす駆動やトイレ動作訓練、歩行器歩行、摂食嚥下向上のための口腔マッサージ、認知機能維持のための脳トレ（パズル・マッチング・漢字・計算・歌など）

※集団訓練：各ユニットや多目的ホールにおいて、リハビリテーションの視点を考慮した体操、ゲーム、嚥下体操や発声練習、音楽歌唱など

※リハ日数は、PT・OTが個別訓練に従事した日数（会議・書類整理・レクは含まず）

※2018年9月 震災の影響あり訓練中止多かった。

※2018年12月～2019年3月 インフルエンザ蔓延により個別・集団訓練中止となるが多かった。

※全体的に昨年と比較し入居個別訓練は減少しているが、個別訓練以外の介入（ユニットスタッフへの指導、ポジショニングや車いす修理など）対応は増えている。またショートステイ個別・レクはOT中心に対応増えている。

7. 相談支援事業所グリーンハイム

1. 基本方針

障がい種別、障がいの程度に関わらず、各々が望む当たり前の生活の実現のため、相談支援専門員としての知識、技術、ネットワークを活用し、フォーマル、インフォーマルな社会資源を繋ぎ合わせた相談支援を実践する。

2. 具体的な取り組み

(1) 相談支援従事者としての専門性の向上

- ① 札幌市自立支援協議会南区地域部会への参画
- ② 札幌市相談支援事業所研修会への参加
- ③ 法人内部及び外部研修への参加
- ④ 関係資格の取得

(2) 相談ケースの確保

- ① 相談支援事業所の役割の理解及び当事業所の認知度向上のために、関係機関の研修や会議等へ参加を通じた顔の見える関係作りの推進
- ② 相談ケースに対して、丁寧な対応を行い、札幌市委託障がい者相談支援事業所、医療機関、区役所、各福祉事業所との連携体制の構築
- ③ 札幌市南区自立支援協議会役員として、南区内障がい関係事業所との連携体制の構築

(3) コンプライアンス体制の確立

定例会議、ミーティング等において、ケース・事例検討の実施や契約関係書類及び経過記録の確認を行った。

(4) コスト管理の徹底

事業所の実績状況、収入状況については、毎月確認を行い、管理者並びに相談支援専門員ともに経営意識を高く持つことができている。来年度より、モニタリング期間の見直しがあり、モニタリング数が増えることが予想されるが、できる限り新規を断らず対応できるよう、コストを意識しつつも精力的に活動を展開している。また、相談ケースの増加に合わせて、業務効率化のために業務整理等を随時行っている。

3. 事業運営状況

(1) 職員の配置状況（2019年3月31日現在）

職 種	人 数	資 格	備 考
管理者兼 相談支援専門員	1人	社会福祉士	
相談支援専門員	2人	社会福祉士・介護福祉士	—
計	3人	—	—

(2) 相談ケースの確保状況

① 札幌市自立支援協議会南区地域部会（以下南区地域部会）

南区内障がい関係事業所及び行政で構成される南区地域部会において、管理者は部会長として参画し、福祉・医療・教育・就労・行政との信頼関係構築を図ることができ、南区地域部会役員の行政担当者、福祉事業者等からのケース紹介を得ることができた。

② 相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、医療機関等との関係構築について

今年度も新規ケースを断らず、丁寧な対応を心がけ、専門職としての信頼関係構築を行い、今まで相談がなかった事業所から新規ケース紹介を得ることができた。また、計画・モニタリング件数も順調に伸びている。一方、入居施設からの新規相談の減少、南区内に相談支援事業所が増えたことがあり、新規相談ケースが昨年に比べ、減少している。

紹介経路	基本相談	計画相談	障害児計画相談	地域移行計画相談	計
法人内施設	0	7	2	0	9
法人内SRV	1	3	0	0	4
他相談支援事業所	2	22	0	0	24
医療機関	1	5	0	0	6
ご家族・本人	3	4	1	0	8
行政機関	1	2	0	0	3
その他	2	11	3	0	16
計	10	54	6	0	70

(3) 相談対応実績

① 新規相談ケース

	申請済み	未申請	計	前年度
4月	5	4	9	3
5月	2	5	7	1
6月	3	5	8	1
7月	2	1	3	3
8月	4	2	6	5
9月	4	4	8	3
10月	3	1	4	3
11月	2	3	5	10
12月	2	2	4	2
1月	2	6	8	22
2月	3	3	6	35
3月	1	1	2	2
計	33	37	70	90

② 新規相談ケース紹介経路

	法人内施設	法人内SRV	他相談支援	医療機関	ご家族	行政機関	その他	計	前年度
4月	2	0	4	0	0	1	2	9	3
5月	0	0	1	0	2	0	4	7	1
6月	0	1	2	2	0	0	3	8	1
7月	0	0	3	0	0	0	0	3	3
8月	0	0	2	0	2	1	1	6	5
9月	0	1	3	0	1	0	3	8	3
10月	0	1	1	1	0	0	1	4	3
11月	0	0	2	0	1	0	2	5	10
12月	1	0	1	0	0	1	1	4	2
1月	0	0	2	3	2	0	1	8	22
2月	0	1	4	0	0	1	0	6	35
3月	0	0	1	0	0	0	1	2	2
計	3	4	26	6	8	4	19	70	90

③ 新規相談ケース障がい福祉サービス事業所への紹介件数（法人内）

	生活介護	ホームヘルプ	短期入居	入居	高齢者サービス	その他	計	前年度
4月	1	1	0	0	0	0	2	1
5月	0	0	0	0	0	0	0	3
6月	0	0	0	0	0	0	0	2
7月	0	0	0	0	0	0	0	2
8月	0	0	0	0	0	0	0	1
9月	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	1
11月	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	2	0	0	2	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	3
3月	1	1	0	1	0	0	3	0
計	2	2	0	3	0	0	7	13

④ 相談支援給付費対象相談件数（計画、継続支援、地域移行支援）

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	計	前年度
4月	0	13	9	10	6	6	14	58	51
5月	0	9	13	7	7	8	14	58	60
6月	0	17	11	11	9	16	12	76	65
7月	0	16	11	4	5	17	11	64	67
8月	1	16	8	7	6	10	7	55	48
9月	1	18	10	10	8	19	9	75	669
10月	0	11	10	8	6	19	11	65	53
11月	0	14	11	10	7	12	11	65	62
12月	0	13	7	20	12	23	9	84	72
1月	0	17	10	9	11	15	7	69	72
2月	0	13	7	4	5	6	10	45	57
3月	0	8	5	10	6	13	9	51	70
計	2	165	112	110	88	164	124	765	746

（４）職員研修、相談支援技術の向上を図る取り組み

① 定例会議、個人面談の実施

定期的に定例会議を開催し、その中でケース検討等を実施し、情報の共有、方針・方向性の確認を行った。また、職員育成、個人目標達成のため、相談支援専門員との個人面談を年2回実施した。

② 外部研修への参加

札幌市及び基幹型相談支援事業所、自立支援協議会関係の研修会へ参加し、専門的な知識を身に付けると同時に関係機関との関係をより強いものにすることができた。法人内研修に参加させていただき、リスク管理について、再度振り返ることができた。

③ 研修状況

<法人内研修・職員有志研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2018. 9. 27	笑いと健康のすてきな関係	法人研修	相談支援専門員1名
2019. 1. 30	社会保障の動向について	法人研修	相談支援専門員2名

<外部研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2018. 5. 10	福祉・医療・保健関係者のための成年後見セミナー	札幌市	相談支援専門員 1名
2018. 7～10	相談支援従事者研修（基礎研修）	札幌市	相談支援専門員 1名
2018. 8. 3	放課後等デイサービス参観	札幌市	相談支援専門員 2名
2018. 8. 8	発達障がいのある児童生徒の具体的支援	北星学園大学	相談支援専門員 3名
2018. 8. 30	相談支援研修会	札幌市	相談支援専門員 1名
2018. 9. 15	「子どもの発達障害とわかりやすい支援のしかた」認知発達に合わせた関わり方	星槎国際高等学校	相談支援専門員 2名
2018. 9. 19	第2回就労支援ってなんだろう？	南区地域部会	相談支援専門員 1名
2018. 9. 28	公開事例検討会	南区地域部会	相談支援専門員 1名
2018. 10. 24	心に傷を持った子どもへの支援	札幌市	相談支援専門員 1名
2018. 10. 26	児童発達支援研修会	ときわ病院	相談支援専門員 2名
2018. 10. 30～31	第18回 地域生活支援推進研究会議	全社協	相談支援専門員 1名
2018. 11. 2	発達障がい特性を背景にもつ、不適応行動とその支援		相談支援専門員 2名
2018. 11. 6	北海道地域生活定着支援センター推進会議について	地域定着支援センター	相談支援専門員 1名
2018. 11. 13	2018年度相談支援従事者研修 専門コース別研修（障がい児支援）	札幌市	相談支援専門員 2名
2018. 12. 11	2018年度相談支援従事者研修（現任研修）	CM ネット	相談支援専門員 1名
2018. 12. 3・11・17	障がい者支援員養成研修（障がいのある方の支援の基礎を学ぶ レベル1）	札幌市	相談支援専門員 1名
2019. 1. 18	債務相談スキルアップ研修会	北海道	相談支援専門員 3名
2019. 2. 12	介護保険制度勉強会	南区	相談支援専門員 1名
2019. 2. 15	身体障害者福祉施設研究セミナー	身障協	相談支援専門員 1名
2019. 3. 12	第3回就労支援ってなんだろう？	南区地域部会	相談支援専門員 2名

8. 通所事業部

1. 通所事業部総括

通所事業部は、2018年度より和幸園デイサービスセンター、和幸園芸術の森デイサービスセンター「のえるの森」、生活介護事業所グリーンハイムに加え、和幸園自立訓練型デイサービスセンター「あうるの森」を新規開設した。「あうるの森」は、特別養護老人ホーム和幸園で取り組んできた自立支援介護における基本ケアを基に、マシンを使つての運動「パワーリハビリテーション」により、使われなくなった筋肉の再活用による姿勢改善・行動変容を目指すものである。10名定員の小規模デイサービスとして、より地域に根ざした存在でありたいと考えている。

また、昨年に引き続き、通所事業部としては、部会を中心とした情報交換や通所事業部合同研修会の開催、人事交流等も行い、運営管理、書類管理などの業務効率化、適正化、稼働実績の向上等の他に、サービス・支援の質の向上に通所事業部として取り組み、進化するデイサービスセンターを目指してきた。

稼働実績について、「のえるの森」は昨年度を超え、ほぼ上限に近い実績を維持できた。しかし、介護保険の改正により通所事業全般の介護報酬の減算や稼働率の低下により、和幸園デイサービスセンター、生活介護事業所グリーンハイムが昨年度の実績を下回る結果となった。2019年度は、あうるの森も含め、稼働実績の向上の為、法人内居宅支援事業所や相談支援事業所とより一層の連携を図り、新規利用者確保に向けた努力を継続して行っていきたいと考えている。

また、職員体制については、新規事業の立ち上げや職員の退職等に伴い、通所事業部としてパート職員を中心とした職員募集を行った。しかし応募者は少なく、1年を通して人員が不足する結果となった。今後も職員の募集は継続していくこととするが、通所事業部としての強みを活かし所属事業所にとらわれない人材の活用を考えていかなければならないと考えている。

9. 和幸園デイサービスセンター

1. 事業活動報告

2017年度より「自立支援介護」の取り組みを本格的に開始し、2018年度は研修への参加や実践場面における課題や問題点を分析しながら、一歩進めた自立支援介護の実践を進めてきた。その中で、ご利用者お一人おひとりの傾向を把握していき、その方に合った支援方法を探ることに努めてきた年でもあった。取り組みを継続していく中で、ご利用者の間でも「水分」「歩行」の重要性の意識付けは定着しつつあり、お互いに声をかけ合いながら実践している姿が多く見られ、ご自身でしっかりと目標を持って取り組まれる方も増えてきている。レク活動や脳トレーニング、行事への取り組みにおいては、ご利用者の要望や意見をできるだけ取り入れ、その時々季節感を感じていただき、楽しみながら元気にお過ごしいただけるようにと取り組んできた。今後は、ご利用者が自ら参加し、充実したものにしていけるように内容の見直しや新たな企画などにも挑戦していきたいと考えている。

ご家族に対しては、送迎時や担当者会議などでの対話を大切にし、ご利用者の状況把握に努めながら、ご相談などに対しても学びの中で培った理論に基づいた適切なアドバイスや助言を行い、必要時に関係各所への連携が図れるように努めている。

事業所の実績としては、1日平均利用者数が34.9名となり前年度と比較し1.8名の減少となった。要因としては、新規ご利用者数が20名にとどまり前年度の43名から半数以下となってしまったこと、また廃止となったご利用者数は44名で前年度より逆に2名増える結果であったことと考えている。廃止の主な理由としては、長期入院や特養やグループホームなどへの入居があり、特に利用回数の多いご利用者に集中したために実績の減少につながった。次年度に向けて、新規のご利用者が半減してしまった原因とその対策を事業所の中で再度分析し、実績の回復に努めていく。

ケアマネジャーや関係機関との連携については、今後も連絡体制を密にして、ケアプランに沿った通所介護計画書の作成やモニタリング、アセスメント、新規加算への情報収集と書類整備を確実にを行い、法令を遵守するとともに、ご利用者お一人おひとりがその方らしい生活を送っていただけるような支援を継続していただけるように努力していく。

最後に、9月の台風の影響による停電での休業、直後に起きた地震による休業等について、当事業所の地震後の早期営業再開については、ご利用者やご家族が大きな不安を感じている中で、デイサービスを利用できることによりご利用者、ご家族ともに安心され、感謝のお言葉を多くいただくことができ、地域の拠点としての使命を果たしていくことができたと考えている。

2. 事業運営状況

(1) 職員配置状況（2019年3月31日現在）

職 種	人数	区 分				備考
		常勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	事業部長兼務
生活相談員	4	1	3	0	0	3名介護職員兼務
介護職員	19	5	3	11	0	3名相談員兼務
看護職員	3	0	0	0	3	3名機能訓練指導員兼務
機能訓練指導員	4	1	0	0	3	3名看護職員兼務
事務員	1	0	0	1	0	
エイド	1	0	0	1	0	
計	33	7	7	13	6	再掲あり

(2) 職員研修実施状況

No	開催日	研 修 名	参加職種
1	2018. 5. 24	香りで脳を活性化！アロマセラピーとタッチケア	法人研修
2	2018. 7. 25	多様性社会に求められるコミュニケーション	法人研修
3	2018. 8. 17	グリーンハイム職員接遇研修	介護員1名
4	2018. 9. 27	笑いと健康のステキな関係	法人研修
5	2018. 10. 24	安全運転講習会	運転業務関係者
6	2018. 10. 25	グリーンハイム職員虐待研修	介護員1名
7	2018. 11. 9	グリーンハイム職員接遇研修	介護員1名
8	2018. 11. 21	職場のコミュニケーションテクニック	法人研修
9	2018. 12. 5	介護サービス事業者集団指導	主任生活相談員
10	2018. 12. 7	介護・口腔ケアセミナー	通所職員全体
11	2018. 12. 14	グリーンハイム職員接遇研修	介護員1名
12	2019. 1. 30	社会保障について	法人職員全体
13	2019. 2. 6	リスクマネジメントについて	法人研修
14	2019. 2. 26	デイサービス運営セミナー	主任生活相談員
15	2019. 3. 1	竹内教授あうるの森指導研修	主任生活相談員
16	2019. 3. 2	竹内教授講演会「介護職」といわれる人はどのような人たちか～仕事のしかたから	法人職員全体

(3) ご利用者状況

① 利用者登録状況

	2019. 3. 31	2018. 4. 1～2019. 3. 31		2018. 3. 31
	ご利用者	新規登録者	廃止者	ご利用者
男	40	9	21	52
女	70	11	23	82
計	110	20	44	134

② 年齢別状況（2019年3月末 利用実人員数）

	～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	
									2018年度	2017年度
男	0	0	5	2	10	12	5	0	34	47
女	0	0	3	3	12	22	21	5	66	70
計	0	0	4	6	23	37	30	5	100	117

③ 要介護状態区分状況（2019年3月末 利用実人員数）

		要支援1	要支援2	要介護					計
				1	2	3	4	5	
男	性	2	2	15	5	7	2	1	34
女	性	6	11	20	17	7	2	3	66
計	2018	8	13	35	22	14	4	4	100
	2017	11	15	45	23	16	4	3	117

④ ADL区分

	自立	一部介助	全介助
歩行	90（車椅子自走含む）	19	1
排泄	90	18	2
食事	106	4	0
入浴	21（サービス不要12）	76	1
更衣	90	20	0

⑤ 廃止理由状況

	2018年度	2017年度
死亡	2	12
入居	16	8
入院	18	13
引越し	0	0
その他	8	9
計	44	42

⑥ 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均		
														2018	2017	
実人員	113	113	111	112	106	101	105	106	105	104	105	100	1,281			
実施日数	25	27	26	26	27	23	27	26	25	24	24	26	306			
延べ利用人員	946	1,005	973	1,001	924	745	931	900	838	759	793	863	10,678			
1日平均利用数	37.8	37.2	37.4	38.5	34.2	32.4	34.5	34.6	33.5	31.6	33.0	33.2		34.9	36.7	
介護 状態 区分	要支援1	36	42	42	43	37	37	40	48	34	26	29	34	448		
	要支援2	94	105	96	93	85	78	89	97	93	86	84	92	1,092		
	1	346	401	380	370	369	288	305	284	278	234	257	298	3,810		
	2	219	212	190	222	193	155	210	195	196	193	179	203	2,367		
	3	188	180	190	214	188	144	217	196	167	150	145	160	2,139		
	4	24	23	35	28	29	23	31	50	48	40	30	26	387		
	5	39	38	40	31	23	20	27	29	22	26	36	42	373		
区分変更	-	4	-	-	-	-	12	1		4	33	8	62			

(介護状態区分に区分変更中の人数は含まず)

(4) 苦情受付件数 () 内 2017 年度

	件数
介護に関する事	1 (1)
職員に関する事	1 (1)
その他	1 (1)
計	3 (3)

(5) 事故報告件数 () 内 2017 年度

	件数	施設外受診
転倒	6 (11)	0 (2)
介護上の事故	0 (1)	0
異食	0 (1)	0
誤薬	0 (1)	0
その他	1 (5)	0
ヒヤリハット	1 (3)	0
計	8 (22)	0 (2)

(6) 行事及び活動実施状況

月	日程	行事及び活動内容	延べ参加人数
4月	4月16日～21日(6日間)	喫茶レク(和幸園デイサービスセンターホール)	222名
5月	4月30日～5月9日(うち6日間)	外出行事 =お花見 石山緑地=	230名
6月	6月8・13・14・25・26・30日	演芸週間(バイオリン演奏、日舞、フラダンス、フルート演奏、手品&サクソ演奏、吹奏楽)	229名
7月	6月末～7月7日	七夕かざり	—
	7月10・11・12・16・20日	外出行事 =豊平公園=	68名
8月	8月9日～15日(うち6日間)	夏祭り	198名
9月	9月2日(1日間)	ハピネス祭	—
	9月10日～15日(6日間)	敬老会	188名
10月	10月15日～19日(5日間)	外出行事 =紅葉見学 さっぽろ湖=	78名
11月	11月5・7・9・13・15日	外出行事 =外食会 和食レストランとんでん川沿店=	79名
12月	12月17日～22日(6日間)	クリスマス会	201名
	12月28日(1日間)	もちつき	32名
1月	1月4日～10日(うち6日間)	宝引き	225名
	1月30日～2月2日(6日間)	節分	133名
2月	2月5日～10日(5日間)	雪まつりスライドショー	197名
	2月13日～3月3日	ひな祭り	—
3月	3月11日～16日(6日間)	年度末ゲーム大会(風船バレー)	205名

(7) ボランティア受け入れ状況

- ・有償ボランティア 2名 週5回(午前4回・午後1回) 利用者お茶提供、洗い物、掃除など

(8) 実習生受け入れ状況

- ・札幌医科大学 4月 4名
- ・星槎道都大学 6月 1名
- ・鹿光学習センター 年間 7名
- ・サンシャイン総合学園 年間 14名
- ・北星学園 8月 1名
- ・認知症実践者研修実習 2月 4名

10. 和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森

1. 事業活動報告

2018年度の目標は、前年度の利用実績を維持するため、登録者数35名、一日平均利用者数10名を目標に取り組んできた。法人内居宅からの新規紹介が3名（前年度は7名）、法人外居宅からの新規紹介で4名（前年度は5名）ご利用頂くことができた。

施設入居などによる廃止者は8名、2019年3月31日現在の登録者数29名（年間平均は30.75名）、年間一日平均利用者数は10.75名（前年度10.71名）、ショートステイ利用やキャンセル等で空きが出た時に振替利用・追加利用を提案し実績維持に努め、毎月平均利用者数10名を超えた。曜日により人数の偏りが見られた時は、ご利用者・ご家族とケアマネジャーと相談し曜日変更して頂くことで平均的な利用状況や新規・追加利用に繋げることができた。広報紙は月1回定期的に発行し、ホームページにも掲載した。今後もショートステイ利用によるキャンセルや入院、施設入居等への迅速な対応、常に新規ご利用者を確保できるよう法人内居宅に限らず、法人外居宅への定期的な情報発信を行っていききたい。

前年度同様に、通常のサービス提供時間にご利用頂くことができない方へ送迎時間を変更する等、柔軟な対応をすることで利用に繋がったケースも多い。綿密な受け入れ態勢で、ご利用者、ご家族のニーズに合わせたサービスを提供してきた職員の力が生んだ結果と考える。

9月6日に発生した地震、停電の影響により、当日の休業を余儀なくされたが、地域貢献を含めた早期の営業再開を目指し、翌日から制限付きの営業として再開するものの利用者は7名となった。信号機が復旧していない中での送迎もあったが、有志の職員の協力を得て営業することができ、ご家族から感謝の言葉を頂いた。

今年度は家族会を1回開催し、7名の方が参加されご家族同士交流を深める会となった。また、運営推進会議は7月にあうるの森と合同で行い、2月は単独で開催した。毎回当センターで活動しているご利用者の様子をスライドショーでご覧頂き、ご家族代表の方と地域住民代表の方に、地域にのえるの森があって安心している等のお話を頂くことができた。

恒例行事である夏祭りは、雨が予想されたため、予め室内で開催することとし、混乱なく準備やプログラムを進めることができた。職員が変装した切り紙ショーやマジックショー、ジェスチャークイズ、歌唱など行い、ご参加頂いた24名のご利用者・ご家族から楽しかったというご意見を頂いた。また、クリスマス会は31名のご利用者のご家族にご参加頂き、歌劇やハンドベル演奏、スライドショー、サンタから一言ずつメッセージを添えてプレゼントを渡す等、皆さんに喜んで頂ける催しを行うことができた。その他、定期的に大道芸人による催しや音楽療法を取り入れ、普段とは一味違う脳リハビリ活動を継続して行った。

外出行事では動物園見学や、ドライブで植物見学等に出掛け、季節感の喚起を図り、ショッピングモールで食材の買い物をしながら歩いて頂き、地域の店舗での昼食会を行った。今後も、地域との繋がりを深め、地域から必要とされる事業所を目指していききたい。

また、認知症専門事業所として、日常的に自立支援介護の理論を学び、基本ケアの視点で水分摂取や運動を行うとともに、ご本人の気持ちに寄り添う支援を職員全員で目指してきた。今後も、認知症状の改善ができるデイサービスとして信頼を得ることと法人主催の地域貢献事業である認知症状改善塾に参加し、日頃の実践による知識をお伝えすることにより、地域にお住まいの認知症の方々がいつまでも幸せに過ごせるよう支援していききたい。

2. 事業運営状況

① 職員配置状況

職 種	人 数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	主任生活相談員兼務
生活相談員	2	1	1	0	0	1名管理者兼務
介護職員	11	0	0	11	0	
看護職員	3	0	0	0	3	機能訓練指導員兼務
機能訓練指導員	3	0	0	0	3	看護職員兼務
事務員	1	0	0	1	0	
エイド	3	0	0	3	0	
計	24	1	2	15	6	再掲あり

② 職員研修実施状況

No.	開催日	研 修 名	開催地	参加職種
1	毎月1回	自立支援介護実践研修	法人内	担当者
2	2018.5.18	高齢者を元気にする基本ケア	法人内	職員全体
3	2018.5.24	認知症&アロマセラピー研修	法人内	職員全体
4	2018.6.12	レクレーションについて	事業所内	職員全体
5	2018.7.10	バリデーションについて	事業所内	職員全体
6	2018.7.25	ビジネスマナーについて	法人内	職員全体
7	2018.9.27	笑い学会	法人内	職員全体
8	2018.10.24	安全運転研修	法人内	職員全体
9	2018.11.13	感染症・虐待防止	事業所内	職員全体
10	2018.11.21	アサーション研修	法人内	職員全体
11	2018.12.7	認知症スキルアップ研修	札幌市	介護職員
12	2019.1.8	接遇について	事業所内	職員全体
13	2019.1.30	社会保障の動向について	法人内	職員全体
14	2019.2.6	リスクマネジメントについて	法人内	職員全体
15	2019.2.12	口腔ケアについて	事業所内	職員全体

③ ご利用者登録状況

	2019. 3. 31	2018. 4. 1～2019. 3. 31		2018. 3. 31
	登録者	新規者	廃止者	登録者
男性	11	2	2	11
女性	18	5	6	19
計	29	7	8	30

④ 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計		平均年齢	
									2018	2017	2018	2017
									男性	1	0	0
女性	1	0	1	1	1	6	5	3	18	19	86.5	87.0
計	2	0	1	2	4	10	7	3	29	30	84.9	85.2

⑤ 要介護状態区分状況

		介護度						計
		支援2	1	2	3	4	5	
男性		1	2	2	2	3	1	11
女性		0	3	9	4	2	0	18
計	2018	1	5	11	6	5	1	29
	2017	1	4	14	6	3	2	30

⑥ ADL状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	7	7	14	3	9	12	1	2	3
排泄	6	8	14	4	7	11	1	3	4
食事	9	14	23	2	4	6	0	0	0
入浴	5	6	11	5	7	12	1	5	6
着脱衣	6	11	17	4	4	8	1	3	4

⑦ 認知状況

	記憶障害				失見当識			
	重度	中度	軽度	計	重度	中度	軽度	計
男性	1	7	3	11	3	4	4	11
女性	2	8	8	18	3	7	8	18
計	3	15	11	29	6	11	12	29

⑧ 認知症状類型

種類	計	
	2018年	2017年
アルツハイマー型認知症	14	15
レビー小体型認知症	4	4
脳血管性認知症	2	1
ピック病（前頭側頭型）	1	1
その他（混合型・不明）	8	9

⑨ 廃止理由状況

	男	女	計	
			2018	2017
死亡	0	0	0	0
長期欠席	0	0	0	2
入院・入居	2	6	8	8
その他	0	0	0	0
計	2	6	8	10

⑩ ご利用者世帯状況

		独居	夫婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男	性	0	9	1	1	0	11
女	性	5	3	1	5	4	18
計	2018	5	12	2	6	4	29
	2017	3	11	1	4	11	30

⑪ 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均		
														2018年	2017年	
実人員	30	32	33	31	31	31	32	31	30	30	29	29	369			
実施日数	25	27	26	26	27	24	27	26	25	24	24	26	307			
延べ利用人員	273	292	288	294	291	257	287	285	271	249	251	265	3,303			
1日平均利用者数	10.92	10.81	11.08	11.31	10.78	10.71	10.63	10.96	10.84	10.38	10.46	10.19		10.75	10.71	
支援	2	8	7	8	7	8	4	9	8	7	7	6	87	0.28	0.17	
介護度	1	36	50	61	61	62	61	73	64	55	52	37	30	642	2.09	1.57
	2	127	128	97	94	87	73	90	104	101	88	80	79	1,148	3.74	3.78
	3	66	69	84	94	95	86	50	46	44	45	64	80	823	2.68	3.89
	4	29	30	30	30	34	28	61	60	59	54	60	63	538	1.75	0.68
	5	7	8	8	8	5	5	4	3	5	3	4	5	65	0.21	0.62

⑫ 苦情受付件数

	件数	
	2018年度	2017年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	1	2
その他	0	0
計	1	2

⑬ 事故報告件数

	件 数	
	2018 年度	2017 年度
転 倒	2	1
介護上の事故	2	1
異 食	0	0
そ の 他	5	4
ヒヤリハット	0	4
計	9	10

⑭ 行事及び活動実施状況

月	行 事
4 月	音楽レク・大道芸
5 月	お花見ドライブ
	のえる森誕生会～祝 11 歳～
	苗植え
	端午の節句
	音楽レク
6 月	音楽療法
	お花見ドライブ
	大道芸
7 月	円山動物園見学会
	避難訓練
	お花見ドライブ
	運営推進会議
8 月	音楽療法
	夏祭り
	お花見ドライブ
9 月	敬老会
	家族会
	大道芸

月	行 事
10 月	紅葉狩り
	音楽療法
	大道芸
11 月	紅葉狩り
	避難訓練
	外食会
12 月	音楽療法・大道芸
	クリスマス会
1 月	音楽療法・大道芸
	初詣
2 月	大道芸
	外食会
3 月	節分
	運営推進会議
	外食会
	音楽療法
	ひな祭り
家族会	
	運営推進会議

⑮ 有償ボランティア受入状況

人 数	回 数	活動内容	活動開始年月
2 名	週 4 回	屋内外の整備等	2010年 4 月
	週 2 回	掃除等	2018年 7 月

⑯ 地域貢献活動

- ・認知症状改善塾への参加（1～2カ月に1回）
- ・介護なんでも相談会への参加（年2回）

1.1. 和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森

1. 事業活動報告

当事業所は2018年4月開設のため、まずは各居宅介護支援事業所へのご挨拶、地域住民の方への周知から始め、新規ご利用者の確保に努めた。

同時に、パワーリハビリでの運動効果をご利用者にしっかりと実感していただけるように各研修に参加し、知識を深め、運動だけではなく、自立支援介護の観点からご利用者の健やかな生活の実現に向けて、基本ケアについても積極的に理解を深めた。

それぞれのご利用者の自宅での様子等もお聞かせいただき、デイサービス利用中だけではなく、ご自宅に戻ってからの生活がより良いものとなるように「基本ケア」の観点はもちろんのこと、様々な角度からアドバイスができるように努めてきた。

年間実績としては1日平均利用者数8.04名となり、目標に達することはできなかったが、登録者数は47名、月間最高の1日平均利用実績は11.10名まで実績の向上を図ることができた。登録者の傾向としては、週1回利用のご利用者が多いこと、体調不良や入院、また用事などのお休みするご利用者が多いこともあり、登録人数の割に平均利用者実績が伸び悩んだと分析している。

今後の安定的な事業所運営に向けて、さらなる職員のスキルアップを目指し、研修には積極的に参加し、知識を深め、ご利用者個々にその方らしい生活を送れるような支援を行い、利用者満足度向上を意識したいと考えている。また、ケアマネジャーや関係機関との連絡を密にし、信頼を得られるよう努力していきたいと考えている。

2. 事業運営状況

① 職員配置状況

職 種	人 数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	生活相談員兼務
生活相談員	3	0	3	0	0	1名管理者兼務、2名介護職員兼務
介護職員	3	0	2	1	0	2名生活相談員兼務
機能訓練指導員	1	1	0	0	0	理学療法士
計	8	1	6	1	0	再掲あり

② 職員研修実施状況

No.	開催日	研修名	開催地	参加職種
1	毎月1回	自立支援介護 web研修 (基本ケア・認知症ケア)	法人内	生活相談員
2	2018. 7. 22	パワーリハビリ 基礎研修	他県	機能訓練指導員 介護職員
	2018. 8. 19			
3	2018. 4. 13	プライバシー保護・法令順守	施設内	全職員
4	2018. 5. 18	自立支援介護について	法人内	正職員
5	2018. 5. 23	アロマセラピーとタッチケア	法人内	職員全体
6	2018. 5. 23	機能訓練指導について	施設内	職員全体
7	2018. 6. 9~10	自立支援介護・パワリハ学会	東京都	生活相談員
8	2018. 7. 25	多様性社会に求められるコミュニケーション	法人内	職員全体
9	2018. 8. 17	接遇について	法人内	介護職員
	2018. 12. 14			
10	2018. 8. 22	事故について	施設内	全職員
11	2018. 8. 22	救命救急対応について	施設内	全職員
12	2018. 9. 27	笑い与健康について	法人内	全職員
13	2018. 10. 24	安全運転講習	法人内	全職員
14	2018. 10. 25	虐待について	法人内	介護職員
15	2018. 10. 30	難病研修会 パーキンソン病について	市内	生活相談員
16	2018. 11. 14	感染症研修	施設内	全職員
17	2018. 11. 21	職場のコミュニケーションについて	法人内	全職員
18	2018. 12. 7	口腔ケアの実際	通所部内	全職員
19	2018. 12. 19	集団指導より 法令順守	施設内	全職員
20	2019. 1. 23	雇用管理責任者研修	市内	管理者
21	2019. 1. 30	社会保障について	法人内	全職員
22	2019. 2. 6	リスクマネジメントについて	法人内	全職員
23	2019. 3. 1	パワーリハビリ研修	施設内	全職員
24	2019. 3. 2	介護職と言われる人は (虐待防止)	法人内	全職員
25	2019. 3. 15	お薬に頼らない自然な排便について	市内	介護職員

③ ご利用者登録状況

	2018. 4. 1~2019. 3. 31		2019. 3. 31
	新規者	廃止者	登録者
男性	25	7	18
女性	34	5	29
計	59	12	47

④ 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	平均年齢
男性	2	3	2	3	4	3	1	0	18	75.10
女性	1	2	2	6	6	8	4	0	29	82.31
計	3	5	4	9	10	11	5	0	47	79.39

⑤ 要介護状態区分状況 (2019年3月末現在)

	要支援1	要支援2	要介護					計
			1	2	3	4	5	
男性	4	4	5	5	0	0	0	18
女性	10	4	5	9	1	0	0	29
計	14	8	10	14	1	0	0	47

⑥ ADL状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	13	21	34	4	5	9	1	3	4
排泄	14	25	39	3	2	5	1	2	3
食事	17	27	44	1	0	1	0	2	2
入浴	16	22	38	1	3	4	1	5	6
着脱衣	15	25	40	3	2	5	0	2	2

⑦ 疾病別利用状況

疾病種別	2018年度	種類	2018年度
関節疾患(膝・腰・股・肩)	24	呼吸器疾患	4
糖尿病	11	統合失調症	3
認知症	6	その他	24
鬱病	4	—	
パーキンソン病関連疾患	4	—	

⑧ 廃止理由状況

	男	女	計
			2018
死亡	0	1	1
長期欠席	0	0	0
入院・入居	4	0	4
その他	3	4	7
計	7	5	12

⑨ ご利用者世帯状況

		独居	夫婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男	性	1	9	3	2	3	18
女	性	11	5	5	6	2	29
計		12	14	8	8	5	47

⑩ 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
実人員	11	18	29	34	34	35	39	46	45	44	46	43	424	
実施日数	21	21	21	22	20	19	23	22	20	20	20	21	250	
延べ利用人員	35	66	111	152	180	162	204	224	217	216	222	222	2011	
1日平均利用者数	1.66	3.14	5.28	6.90	9.00	8.52	8.86	10.18	10.85	10.80	11.10	10.57	8.04	
支援	1	1	11	27	36	44	38	42	54	50	51	47	48	449
	2	0	7	4	12	21	17	32	34	29	34	33	34	257
要介護	1	18	23	35	50	49	48	60	56	59	52	59	58	567
	2	11	14	33	46	61	55	64	74	74	75	79	78	664
	3	1	2	4	6	5	4	6	6	5	4	4	4	51
	4	2	5	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	5	2	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10

⑪ 苦情受付件数

	件数
	2018年度
介護等に関すること	0
職員に関すること	1
その他	0
計	1

⑫ 事故報告件数

	件数
	2018年度
転倒	3
介護上の事故	2
異食	0
その他	2
ヒヤリハット	0
計	7

⑬ 行事及び活動実施状況

月	行事
4月	
5月	お花見
6月	
7月	運営推進会議
8月	避難訓練
9月	

月	行事
10月	
11月	紅葉見学
12月	クリスマス
1月	
2月	
3月	避難訓練
—	運営推進会議

⑭ 地域貢献活動（福祉教育）

- ・認知症改善塾

12. 生活介護支援事業所グリーンハイム

1. 事業実績の要約・課題

9月に発生した台風・地震災害による停電により2日間の休業を余儀なくされたが、職員の協力により地震翌日には営業を再開し、ご利用者・ご家族に喜んで頂くことができた。この災害で、あらためて地域の中で事業所の存在意義を実感するとともに、これからも地域社会を支える事業所運営継続の必要性を感じる出来事となった。職員自身が被災し、自宅の電気が復旧せず、信号機や公共交通機関も復旧していない中で事業所に集まり、早期に営業を再開できたことは、日頃から事業所職員がご利用者のことを思って勤務してくれている結果であると高く評価している。今後もこの人財を大切にしていけるとともに、新人職員育成を継続して行い地域福祉の一役を担っていきたい。

事業所の年間事業実績は、1日平均利用者数13.19名と前年度比でマイナス0.76名（延べ228名）の利用実績減となった。年間を通して新規利用者は5名、廃止者は4名と、登録人数は維持できたが、昨年度に減少した登録人数の回復までには至らなかった。登録人数が減少したままで、新規利用者の獲得ができなかった結果、実績が低下する結果となった。一方で、障がい区分5・6割合が61%を超え「人員配置体制加算I」を取得し、安定した収益を得ることができた。次年度においても重度ご利用者の受け入れを継続し、障がい区分5・6割合60%以上を確実に維持する為に、日々の実績管理を行っていくことが求められる。

地域との連携において、札幌市自立支援協議会南区地域部会子ども部会へ参画し、研修や交流の中で他事業所や養護学校と連携強化を図ることができた。それにより養護学校を卒業された新規利用者の獲得に繋げることができた。今後も養護学校の実習生を積極的に受け入れ、将来的なご利用者の確保に取り組んでいきたい。

職員体制としては、職員一丸となって新規採用のパート介護職員へ教育を行ったことで、早期に現場で活躍することができた。今後も職員育成に取り組むと共に、ご利用者に不利益を与えないよう欠員に対して計画的にパート介護職員の確保を行い、事業所の安定運営を図っていきたい。

今後における大きな課題として新規利用者の確保があげられる。ご利用者の高齢化がさらに進み、利用廃止者が増加する可能性が予想されるため、実績を維持、向上させていくための対策が急務である。南区内にある相談支援事業所、養護学校、知的障がい施設等へのアプローチを丁寧に行っていきたい。特に、相談支援事業所グリーンハイムとの連携強化を図り、新規利用者確保に努めていきたい。また、ショートステイ利用ができる施設と併設している強みを生かし、ショートステイと絡めたご利用者の確保にも継続して取り組んでいきたい。

2. 事業運営状況

(1) 職員配置

職名	現員数	備考
管理者	1	常勤兼務(正職員)
サービス管理責任者	1	常勤(正職員)
看護師・機能訓練指導員	2	非常勤職員
生活支援員(介護員)	14	正職員2名 非常勤職員12名
計	18	

(2) 職員研修実施状況

【施設外研修】

NO	研 修 名	開催日	参加人数
1	第 18 回地域生活支援推進研究会議	2018. 10. 30・31	1 名
2	身体障害者福祉施設研究セミナー	2019. 2. 15	1 名

(3) ボランティアの受入状況

有償ボランティア・・・1名 月～金曜日 11時30分から15時30分

(4) 実習生受け入れ状況

鹿光学習センター 介護職員実務者研修3日間実習 4名

(5) ご利用者状況

① ご利用者登録状況

区 分	2019年3月31日	2018年4月1日～2019年3月31日		2018年3月31日	備 考
	登 録 ご利用者	新 規 登 録 者	登 録 廃 止 者	登 録 ご利用者	
男性	17	3	0	14	
女性	25	2	4	27	
計	42	5	4	41	

② 登録廃止理由状況（2019年3月末現在）

	男性	女性	計	2017年度
死亡	0	0	0	4
長期入院	0	1	1	0
施設入居	0	1	1	3
地域移行	0	0	0	0
その他	0	2	2	2
計	0	4	4	9

③ 年齢別状況（2019年3月末現在）

区 分	～20歳未満	20～30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50～60歳未満	60～70歳未満
男性	1	0	4	1	3	5
女性	0	2	7	5	3	4
計	1	2	11	6	6	9
区 分	70歳～		計	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	3		17	18	73	52.82
女性	4		25	23	80	50.40
計	7		42			51.38

④ 疾患別・障害程度区分別状況（2019年3月末現在）

	疾患別状況			障害別支援区分別状況									
	男性	女性	計	2		3		4		5		6	
				男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
脳性麻痺	3	8	11	0	0	1	0	0	2	0	0	2	6
脳血管障害	4	3	7	0	0	1	1	2	1	1	0	0	1
心臓病	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頭部外傷	2	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
視覚障害	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
リウマチ	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
知的障害	3	1	4	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0
その他	4	10	14	0	0	2	3	1	1	0	0	1	6
計	17	25	42	0	0	5	5	6	4	1	1	5	15

⑤ ADL状況（2019年3月末現在）

	食 事				更 衣			
	全介助	一部介助	自立	計	全介助	一部介助	自立	計
脳性麻痺	4	3	4	11	8	1	2	11
脳血管障害	1	0	6	7	1	1	5	7
心臓病	0	1	0	1	0	1	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	0	1	0	1	0	1
リウマチ	0	1	1	2	1	0	1	2
知的障害	0	1	3	4	1	2	1	4
その他	5	3	6	14	6	2	6	14
計	10	11	21	42	18	8	16	42

	排 泄				入 浴			
	全介助	一部介助	自立	計	全介助	一部介助	自立	計
脳性麻痺	8	0	3	11	8	3	0	11
脳血管障害	1	0	6	7	1	5	1	7
心臓病	0	1	0	1	1	0	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	0	1	1	0	0	1
リウマチ	0	1	1	2	1	0	1	2
知的障害	1	2	1	4	2	2	0	4
その他	7	1	6	14	7	3	4	14
計	17	7	18	42	22	13	7	42

⑥ 移動の状況（2019年3月末現在）

	全介助	補助具使用で歩行可能	車椅子で移動可能（電動含む）	独歩可能（不安定者含む）	計
脳性麻痺	6	0	4	1	11
脳血管障害	1	0	4	2	7
心臓病	0	0	1	0	1
頭部外傷	0	0	1	1	2
視覚障害	0	0	0	1	1
リウマチ	0	0	2	0	2
知的障害	1	0	0	3	4
その他	5	0	4	5	14
計	13	0	16	13	42

⑦ 言語障害の状況（2019年3月末現在）

	正 常	ほぼ聞き取れる	半分程度聞き取れる	時々聞き取れる	会話不能	計
脳性麻痺	3	2	2	1	3	11
脳血管障害	3	3	0	0	1	7
心臓病	0	1	0	0	0	1
頭部外傷	1	0	0	1	0	2
視覚障害	1	0	0	0	0	1
リウマチ	2	0	0	0	0	2
知的障害	1	0	1	1	1	4
その他	7	0	0	0	7	14
計	18	6	3	3	12	42

(6) 苦情処理状況 ()は2017年度分

	件 数	第三者機関依頼
職員との関係	0 (0)	0 (0)
運営等関係	0 (0)	0 (0)
計	0 (0)	0 (0)

(7) 事故発生状況 ()は2017年度分

	件 数	施設外受診対応
転倒	1 (2)	1 (0)
誤薬	0 (0)	0 (0)
介護事故	1 (1)	1 (1)
その他	0 (0)	0 (0)
計	2 (3)	2 (1)

(8) 活動内容・行事他

① 活動・行事内容

月	行事	創作活動
4月	どら焼きパーティー4回	折り紙製作教室 鯉のぼり製作
5月	園芸活動～花、野菜などの植物を育てよう 外出行事（新千歳空港）	母の日プレゼント製作 さくらの木飾り製作
6月	外出行事（イオン平岡） 外出行事（小樽・アリオ札幌） 移動動物園 見学	夏の飾り作り 調理教室
7月	外出行事（小樽・アリオ札幌） 外出行事（開拓の村・イオン新札幌） バーベキュー（中庭にて）1回	七夕飾り製作 和紙工作
8月	バーベキュー（中庭にて）3回	折り紙製作教室 秋の飾り作り
9月	たこ焼きパーティー 4回	ハロウィン飾り製作
10月	焼き芋パーティー 4回 園芸活動～野菜を収穫しよう	ハロウィン飾り製作 スタンドグラス製作
11月		クリスマス飾り製作
12月	クリスマス会 1回	正月飾り製作 ハーバリウム製作
1月	新春ビンゴゲーム大会 6回 鍋料理の日（寄せ鍋）2回	春の飾り作り 節分お面作り
2月	節分の豆まき 鍋料理の日（寄せ鍋）3回	ひな祭り飾り製作
3月		和紙・粘土工作 折り紙製作教室

② スポーツレク活動（2018.4～2019.3 まで毎日午後に行っていた活動）

スカットボール、ボウリング、シャッフルゴルフ、ペットボトルボウリング、缶コロリングゲーム、シャッフルゲーム、ゲーゴルゴルフ、ゲーゴルゲーム、めくってポンゲーム、風船バレー、ペットボトルサッカー、トントン相撲、豆まめりレー、アニマルゲーム、黒ひげゲーム、トランプ、外気浴、館内散歩

③ 個別活動：（2018.4～2019.3 まで行っていた活動）

ストレッチ、将棋、オセロ、花札、カラオケ、塗り絵、和紙工作、数学勉強、DVD 試聴、編み物、歩行訓練（廊下内）、日光浴、館内散歩

(9) 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
区分別延べ利用者数 (下段は登録数)	登録者数	37	37	38	37	38	38	40	40	39	39	37	40	
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	区分3	64	70	79	71	84	58	67	59	61	60	54	61	
		10	11	12	11	11	10	11	11	11	10	8	9	
	区分4	46	46	45	49	69	45	61	55	46	54	60	63	
		8	7	7	8	9	9	9	9	8	9	9	9	
	区分5	12	12	11	12	0	7	9	11	9	10	7	10	
		1	1	1	1	0	2	2	2	2	2	2	2	
	区分6	179	181	190	180	195	138	199	184	160	159	181	211	
		18	18	18	17	18	17	18	18	18	18	18	20	
	開設日数	23	24	25	24	25	20	25	24	22	22	22	24	280
	延べ利用者数	301	309	325	312	348	248	336	309	276	283	302	345	3,694
	1日平均ご利用者数	13.09	12.88	13.00	13.00	13.92	12.40	13.44	12.88	12.55	12.86	13.73	14.38	13.19
区分5・6の割合 (%)	63.46	62.46	61.85	61.54	56.03	58.47	61.90	63.11	61.23	59.72	62.25	64.06	61.37	

3. 日中一時支援事業グリーンハイム

(1) 登録者 (定員3名)

男性 0名

女性 0名

(2) 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4時間未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4時間以上～8時間未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8時間以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

13. 地域事業部

1. 地域事業部総括

2018年度は、「地域との共存・共栄・共生」を目指し、地域の方々の要望に基づき、法人の地域貢献事業として実施している「いしやま朝市送迎バス」の運行を地域の他法人と協力し、継続することができた。「いしやま朝市送迎バス」の利用者数は増加の一途を辿り、地域の中で不足する資源の1つとして、地域の高齢者や障がいをお持ちの方々の外出機会の確保のための足として、法人の資源を有効に活用できたと考える。また、石山地区福祉のまち推進センターと共同で開催をしている「お茶の間懇談会」では、昨今のニュースでも注目されている「消費者詐欺」についての講習会を実施し、法人の方針である地域貢献や地域住民との交流を図ることができた。

地域事業部各事業所の運営については、地域に根ざした活動を地道に行っているが、和幸園居宅介護支援事業所、グリーンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所の実績としては、昨年度を下回る結果となった。但し、両事業所においても、今年度中に人員をしっかりと補充し、次年度に向けての地盤作りはできたと考えている。次年度は、昨年度を超える実績を残せるよう職員一丸となって進んでいきたい。

介護予防センターでは、地域に根ざした活動を基本として、法人内外の人脈を生かし、地域との連携を強化した運営を実践することができている。介護予防に資する活動の最前線として、地域との関わりをより円滑に行えるよう職員の創意工夫により運営し、転倒予防教室などの利用者数は増加している。

また、地域事業部事務所が芸術の森地区に移転したことで、法人としての地盤を拡大し、新たな地域連携体制を構築することができた。国が推し進める、地域包括ケアに必要な地域に根ざした法人・事業所作りを目指して、地域事業部全体で進んでいきたいと考えている。

どんな依頼に対しても「断らない」方針を基本として、次年度もより一層地域に密着した事業展開を図っていききたいと考える。

1 4. 和幸園指定居宅介護支援事業所

1. 事業活動報告

2018年度の居宅介護支援事業所の目標件数は、給付管理数を要介護者数175件、要支援者数30件の計205件としていたが、実績は要介護者数171.42件、要支援者数28.5件の計199.92件となり要介護・要支援ともに目標達成できなかった。前年度との実績比は要介護が約4件減、要支援が約2件増となり約70万円の減収、予算比較でも同じく70万円程の減収となった。黒字を出すことが難しいと言われている居宅介護支援事業所ではあるが、昨年・一昨年から2年連続減収となっており、来年度に向けて対策を検討しなければいけない状況となっている。その対策として、年度末の1月～3月に南区にある3つの地域包括支援センターと緊密に連携をとる方針を打ち出し、その結果1月～3月に地域包括支援センターからの新規依頼を8件頂くことができ、3月には大きく実績を回復することで、次年度に向けた土台作りができたと考える。

次年度においても事業所職員1名の入れ替わりが控えており、ご利用者に負担をかけることなく、また支援の質を落とすことなく、居宅介護支援事業所として変革を進めていき、より質の高い支援が提供できるよう進めていく方針である。

2. 本年度の重点目標

(1) 安定したご利用者確保に向けた関係機関との連携強化

地域で少しでも長く生活できるようにご家族及び地域の方々、サービス事業所と連携しながら、ご利用者の選択に基づき適切な保健医療サービスが受けられるよう支援を継続した。また、在宅生活に支障をきたす状況を施設で軽減し、再び在宅で生活していただくため法人本体の施設との連携を今まで以上に緊密に行ったことで、ご利用者が望まれる在宅生活の継続ができた。その結果、法人内事業所の和幸園短期入所・芸術の森デイサービスの高い実績維持にも貢献することができたと考える。

(2) 自立生活支援の理念に沿ったケアプラン作成と運営基準の遵守

居宅サービスの運営基準を遵守し、不備のない分かりやすい記録を目指し、取り組みを進めてきた。毎週木曜日に行っている伝達会議にてケアプラン点検を行い、運営基準の遵守に努めた。

3. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

① 質の高いケアマネジメントの実践

積極的に医療との連携を図り、疾病と生活障がいとの関連性について精査し、ご利用者の生活課題を解決するための取り組みを行った。

② 中立性・公平性の確保

ご利用者の利益を最優先に支援を行い、独立かつ幅広い関係機関との関係を保ち、公平・中立なケアマネジメントを実践した。

③ 高齢者の権利擁護のための必要な援助

高齢者虐待防止法の理解を深め、早期発見及び予防に努めるとともに、行政から依頼のあった緊急ケースに対し迅速に対応した。事業所担当利用者で虐待の疑いがある場合も、事業所として方針を決め札幌市・地域包括支援センターへ相談を行った。

④ 説明責任について

制度改正に伴う情報、ケアプランの内容をご利用者にご適切な方法で分かりやすく説明した。

⑤ 緊急時における迅速な対応

特定事業所として、緊急時に即対応できるよう、各ケアマネジャーが連携し対応を行った。

⑥ 支援困難ケースの積極的受け入れ

認知症等の疾患が原因でサービス利用に対して拒否的な方に対しては、サービス内容の理解が容易に進むよう、ご家族等より詳細に情報を収集し、関係事業所との綿密な打ち合わせのもと対応することで、スムーズなサービス利用に繋がるよう支援した。

(2) 財務の視点

① サービス提供エリアにおける情報収集

常に経営分析を念頭に置きつつ、関係機関との連携の強化を図り、サービス提供エリアにおける新規参入事業所等、福祉サービスの動向を把握し、安定した事業所経営に努めた。

② ケアマネジメント力の向上による在宅生活期間の延長

事業所のケアマネジメント力の向上を図りながら、できるだけ住み慣れた在宅生活を長く継続できるよう、地域にある各種サービス事業所との連携強化に努めた。

③ 新規ケースの確保

新規ケースの確保では電話相談や訪問による相談に随時対応し、特に地域包括支援センターからの紹介ケースを積極的に受け入れ、新規利用者確保に努めた。

④ コスト管理の徹底

管理者とリーダーを中心に業務分担を積極的に行い、業務の効率化を推し進めた。

(3) 人材確保と育成

今年度は退職者が2名出たが、法人内異動により即人員補充を行い、安定的な人員で事業所運営を継続することができた。育成面については、必要時に個別面談を行い、主任ケアマネジャーを中心にスーパーバイズを行ったこと、伝達会議で個別ケースの検討（事例検討会）やケアプラン点検、新しい介護保険情報を全スタッフで共有し検討できたことで、事業所としての底上げができたと考える。

(4) 地域貢献の推進

① 地域に密着した相談機関として、担当地域である南区第一地域包括支援センターからの相談件数が飛躍的に向上した。（2017年度2件、2018年度7件）

② 石山においてお茶の間懇談会を実施する等、地域の行事に積極的に参加し、地域の方々との距離を縮めることに努めた。また「いしやま朝市バス」の添乗員にケアマネジャーも加わることで、より一層地域に根ざした事業所作りができたと考える。

(5) ガバナンス体制の強化

① 運営減算の発生防止として、定期的に介護保険制度の勉強会を行い、運営基準を遵守するよう努めた。

② プライバシーの尊重と秘密保持については、事業所内での検討を基に個人情報の安全な取り扱いをマニュアル化し、定期的に見直しを行った。

4. 事業運営状況

① 職員の配置状況

2019年3月31日現在

職 種	人 数	備 考
管理者・介護支援専門員	1	地域事業部係長兼務
主任介護支援専門員	1	地域事業部部長兼務
居宅リーダー・主任介護支援専門員	1	
主任介護支援専門員	2	キャリア正職員2名
介護支援専門員	2	キャリア正職員2名
計	7	

② 従業者研修実績

日 程	研修名	参加者数
2018. 4. 12	事例検討会（中野氏・中島氏ケース）	介護支援専門員8名
2018. 5. 10	共家事について（檜森氏より講義）	介護支援専門員7名
2018. 5. 17	ケアプラン2表点検	介護支援専門員7名
2018. 6. 28	ヘルパー支援の勉強会について	介護支援専門員8名
2018. 7. 6	サービス担当者会議の要点	介護支援専門員7名
2018. 7. 19	ケアマネジャーとしての役割と個人の切り替えについて	介護支援専門員6名
2018. 7. 26	事例検討会（椿野氏ケース）	介護支援専門員7名
2018. 8. 2	事例検討会（安藤氏ケース）	介護支援専門員7名
2018. 9. 13	虐待勉強会 伝達会議内で実施	介護支援専門員7名
2018. 10. 11	合同事例検討会 SONPO ケア居宅	介護支援専門員7名
2018. 10. 25	がんについての勉強会 伝達会議内で実施	介護支援専門員7名
2018. 11. 8	事例検討会（中島氏ケース）	介護支援専門員7名
2018. 11. 15	事例検討会（中島氏ケース・椿野氏ケース）	介護支援専門員7名
2018. 11. 22	事例検討会（中島氏ケース）	介護支援専門員5名
2018. 12. 6	コメントについての研修会実施	介護支援専門員7名
2018. 12. 20	事例検討会（新規ケース）	介護支援専門員6名
2019. 3. 7	事例検討会（新規ケース）	介護支援専門員7名
2019. 3. 14	合同事例検討会 SONPO ケア居宅	介護支援専門員7名

③ 2018年度居宅介護支援事業所請求実績数

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未確定	計	要支援	総計
4月	69	54	27	16	8	2	176	23	199
5月	67	53	29	17	9	2	177	23	200
6月	62	51	29	19	7	3	171	26	197
7月	62	55	32	18	8	0	175	29	204
8月	61	54	31	16	9	0	171	30	201
9月	60	52	31	15	9	1	168	29	197
10月	61	56	32	12	10	3	174	31	205
11月	57	57	31	13	9	0	167	32	199
12月	55	56	33	12	11	4	171	31	202
1月	57	56	30	12	10	3	168	29	197
2月	61	53	27	9	12	5	167	29	196
3月	62	58	28	8	13	3	172	30	202
合計	734	655	360	167	115	26	2057	342	2,399
昨年	830	630	406	135	87	21	2109	322	2,431

④ 2018年度 相談ケース経路

	来所	法人内	民生委員	事業所	継続相談	ご利用者関係	電話	地域包括	認定調査員	医師、病院MSW	合計
合計	4	12	1	12	1	18	13	25	2	12	100

⑤ 2018年度 新規利用者紹介経緯（給付管理を行った件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
元ご利用者(再開)	2	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	7
病院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
法人内紹介	0	1	1	2	0	1	2	0	0	0	0	3	10
ご利用者家族	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	5
第一包括	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	4	7
第二包括	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	2	1	6
第三包括	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
予防センター	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
南区紹介	0	0	0	2	0	0	0	2	2	0	0	0	6
電話	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
来所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他居宅	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
職員紹介	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	5
継続相談	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
他事業所紹介	0	0	0	1	0	0	2	1	0	2	1	0	7
近隣住民相談	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	4	8	4	7	2	1	11	4	4	2	7	13	67

⑥ 要介護者における事業種別 居宅給付管理件数（法人内にある4事業のみ、要支援含まず）

種 別	件 数（左側全体利用件数 右側法人内利用件数）							
	2018年度		2017年度		2016年度		2015年度	
	全件数	法人内	全件数	法人内	全件数	法人内	全件数	法人内
訪問介護	694	445 (64%)	781	451 (58%)	869	624 (72%)	876	667 (76%)
通所介護	784	523 (67%)	823	566 (69%)	875	634 (73%)	977	625 (64%)
認知症 通所介護	281	220 (78%)	320	238 (74%)	343	252 (74%)	321	254 (79%)
短期生活介護	376	320 (85%)	377	308 (82%)	337	277 (82%)	293	253 (86%)

15. 和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所

1. 事業活動報告

2018年度は、サービス提供責任者4名、常勤ヘルパー2名、登録ヘルパー28名の職員体制でスタートした。年度中に2名の登録ヘルパーを採用したが、働く曜日と時間が限られていたため、常勤ヘルパーとサービス提供責任者でヘルパー不足に対応した。慢性的なヘルパー不足が続く中、今年度は新規53件(介護28件、予防20件、障がい5件)を受け入れたが、数カ月で終了したケースが介護6件、予防6件、障がい2件とあり、また入院になるご利用者も多く、最も多い月には9名の入院者があった。また、10月以降に5名のヘルパーの退職(入院、体調不良、高齢の為など)があり、ヘルパーの補充ができないまま、現在利用して頂いているご利用者が一日でも長く在宅で暮らして頂けるよう支援に努めたが、入院や休止、地震等の影響もあり介護保険では稼働数をあげることができず、予算に届かず減収となってしまった。障がい福祉サービスでは、入院や休止等はほとんどなく、サービスに繋がると安定した稼働が続いていた。

慢性的なヘルパー不足、ヘルパーの高齢化への対応と訪問介護事業所としての課題は多いと考える。若いヘルパーを採用し、育成していけるシステム作りを進めていきたい。これからもヘルパー一人ひとりのやさしさや思いやりが地域に届くように、どんな困難ケースにも対応し支援していきたいと考える。

2. 事業運営状況

① 職員の配置状況

	ヘルパー体制			
	常勤	非常勤	総数	
			2018年度	2017年度
2018年 4月	6	28	34	35
5月	6	28	34	35
6月	6	28	34	34
7月	6	28	34	34
8月	6	29	35	34
9月	5	29	34	34
10月	5	29	34	34
11月	4	29	33	34
12月	4	29	33	34
2019年 1月	5	26	31	34
2月	6	26	32	33
3月	6	26	32	33

② ヘルパー資格状況

	2018年度	2017年度
介護福祉士	21	21
ホームヘルパー1級	1	1
ホームヘルパー2級	10	11
ガイドヘルパー	20	20
臨床検査技師	1	1
社会福祉主事	1	1

(重複有り)

③ 研修状況

<事業所内研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2018. 4. 21	法令遵守	事業所	ヘルパー31名
2018. 5. 19	虐待防止	事業所	ヘルパー31名
2018. 6. 16	医療の知識	事業所	ヘルパー30名
2018. 7. 21	ヒヤリハットの事例検討	事業所	ヘルパー31名
2018. 8. 18	高齢者によくある疾病Ⅰ	事業所	ヘルパー27名
2018. 9. 15	緊急時の対応	事業所	ヘルパー29名
2018.10. 20	調理実習	事業所	ヘルパー27名
2018.11. 17	認知症について	事業所	ヘルパー30名
2018.12. 15	ホームヘルパーだから出来る認知症ケア	事業所	ヘルパー26名
2019. 1. 16	食中毒・感染症から利用者を守ろう	事業所	ヘルパー27名
2019. 2. 16	高齢者によくある疾病Ⅱ	事業所	ヘルパー30名
2019. 3. 16	接遇について	事業所	ヘルパー28名

<会議内グループワーク研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2018. 4. 21	法令遵守	事業所	ヘルパー31名
2018. 5. 19	虐待防止	事業所	ヘルパー31名
2018. 6. 16	ヘルパーが知っておきたい病気について話し合おう	事業所	ヘルパー30名
2018. 7. 21	ヘルパーが知っておきたい病気についてのグループ発表	事業所	ヘルパー31名
2018. 8. 18	ヘルパーが支援する中で自慢できる事	事業所	ヘルパー27名
2018. 9. 15	高齢者虐待防止	事業所	ヘルパー29名
2018.10. 20	食材がない時のお助けレシピ	事業所	ヘルパー27名
2018.11. 17	認知症について	事業所	ヘルパー30名
2018.12. 15	ホームヘルパーだから出来る認知症ケア	事業所	ヘルパー26名
2019. 1. 16	食中毒・感染症予防として何が出来るか考えよう	事業所	ヘルパー27名
2019. 2. 16	ケアのポイントについて	事業所	ヘルパー30名
2019. 3. 16	コミュニケーションを高める	事業所	ヘルパー28名

<事業所内研修>

研修名	開催日	研修主体	参加職種
記録の書き方	6/1(2名)、6/12(3名)6/13(3名)、6/21(2名)、6/22(2名)、7/18(5名)、7/19(8名)、7/20(2名)、8/10(2名)	事業所	ヘルパー29名
医療の知識(血圧)	9/17(4名)、9/18(2名)、9/19(6名)、9/20(5名)、9/21(4名)、9/25(4名)、9/27(4名)	事業所	ヘルパー29名
実技研修(歩く)	11/23(3名)、12/13(7名)、2/18(4名)、2/19(4名)、2/20(1名)、2/21(3名)、2/25(2名)、2/26(1名)、3/5(2名)	事業所	ヘルパー27名
実技研修(座る)	11/23(3名)、12/13(7名)、2/18(4名)、2/19(4名)、2/20(1名)、2/21(3名)、2/25(2名)、2/26(1名)、3/5(2名)	事業所	ヘルパー27名
実技研修(起き上がる)	3/11(2名)、3/12(7名)、3/14(3名)、3/15(4名)、3/18(3名)、3/19(3名)、3/26(1名)	事業所	ヘルパー23名
実技研修(立ち上がる)	3/11(2名)、3/12(7名)、3/14(3名)、3/15(4名)、3/18(3名)、3/19(3名)、3/26(1名)	事業所	ヘルパー23名

<法人内研修・職員有志研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2018. 5. 24	香りで脳を活性化!アロマセラピーとタッチケア	法人	ヘルパー 2名
2018. 7. 25	多様性社会に求められるコミュニケーション	法人	ヘルパー 2名
2018. 9. 27	笑い与健康の素敵な関係	法人	ヘルパー 3名
2018. 11. 21	職場のコミュニケーションテクニック	法人	ヘルパー 1名
2019. 2. 6	リスクマネジメント~事例を通して~	法人	ヘルパー 1名

<外部研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2018. 12. 2	難病患者等ホームヘルパー養成研修会	札幌市保健所健康企画課	ヘルパー 4名
2018. 11. 8・9・19・20	行動援護従業者養成研	NPO 法人北海道地域ケアマネジメントネットワーク	ヘルパー 1名
2018. 11. 27・29 12. 12・18	札幌市障害福祉サービス事業所管理者等研修 初級	キャリアバンク	ヘルパー2名
2018. 12. 6・13	札幌市障害福祉サービス事業所管理者等研修 中級	キャリアバンク	ヘルパー 1名
2018. 9. 27	組織リーダーの育成と自立型人材育成の実践的手法	ホットハウス	ヘルパー 2名
2018. 1. 25	サービス提供責任者初任者研修	介護労働安定センター	ヘルパー 1名

H30年度 利用者人数（介護保険）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
非該当	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
事業対象者	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
要支援1	9	11	11	11	12	12	14	15	16	18	20	20	169
要支援2	14	16	19	17	15	15	16	15	14	15	15	16	187
介護1	30	28	30	28	28	30	30	30	33	34	34	32	367
介護2	26	24	24	26	28	26	26	24	22	22	22	24	294
介護3	7	7	7	7	6	9	9	9	10	11	8	7	97
介護4	4	4	5	5	5	4	5	4	3	3	1	1	44
介護5	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	4	4	41
合計	97	97	101	100	99	101	105	102	103	108	106	106	1225

H30年度 障がい区分別利用者人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居	区分1													0
	区分2	6	9	9	10	10	8	8	8	9	9	9	10	105
	区分3	3	2	3	2	3	4	2	2	2	2	1	2	28
	区分4	1	1	1	1	1	1	1	1					8
	区分5	1	1	1										3
宅	区分6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	6	74
	計	17	19	20	19	20	19	17	17	17	18	17	18	218
重	区分1													0
	区分2													0
	区分3													0
	区分4													0
	区分5													0
度	区分6	6	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	52
	計	6	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	52
同	区分1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	区分2													0
	区分3													0
	区分4										1			1
	区分5	1	1	1	1			1	1	1				7
行	区分6													0
	計	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	1	1	20
移	区分1													0
	区分2													0
	区分3				1		1			1	1		1	5
	区分4				1	1	1	1	1				1	6
	区分5	1	1	1										3
動	区分6	1												1
	計	2	1	1	2	1	2	1	1	1	1	0	2	15

16. 介護予防センター石山・芸術の森

1. 事業活動報告

主催事業である転倒予防教室については、両地区において地域に定着し、地域の社会資源の一つとして認知され始め、口コミのみにも関わらず多くの参加者があった。また、アクロスプラザ集会所では、石山地区に隣接している藤野地区からの参加者が増え、全体の2割程度になった。

芸術の森地区では、地域の課題でもある縦長の町内が、会場へのアクセスの問題となり参加者が限定されることから、現在の実施方法から身近で通いやすい場所で自主的に活動できる「運動サロン」開催が必要と考えている。また、芸術の森地区への事務所移転に伴い、芸森地区から福祉活動支援への依頼や相談があり、地域の方が気軽に事業所に立寄ってくれる等、芸森地区においても身近な存在となってきている。

認知症予防教室として実施している「森の寺子屋」については、1年間で自主運営できる体制の準備を行い、次年度より完全自主運営へと移行することとなった。予防センターとしては、自主運営が今後も継続できるように年に数回関わりを持ち、支援を継続する予定である。

また、次年度より始まる「介護予防機能強化事業」を見据え、地域での自主的な「運動サロン」立ち上げの中心的な役割を担う人材育成のため、南区介護予防センターの5つのセンターが連携し「運動サロンリーダー養成講座」の実施について検討を重ね、2月から週1回のペースで5回にわたり講座を実施することができた。担当地域からも参加者があり、次年度からの自主運営「運動サロン」の立ち上げの足掛かりができた。

石山地区において2013年度より開催している「お茶の間懇談会」を石山地区福祉のまち推進センター及び法人内事業所等との連携により開催した。今年度は、タイムリーな話題を題材にした「特殊詐欺」についての講習会を実施し、法人の方針である地域貢献と地域の方々との交流の機会となった。

地域との関わりについて、芸術の森地区では主に地区社会福祉協議会・地区福祉のまち推進センターと連携し、「もりの仲間のさわやかクラブ」を実施し、体力測定等を行い、介護予防の普及・啓発に繋げた。

石山地区では、まちづくり協議会福祉部役員として、また福祉のまち推進センター運営委員会アドバイザーとして積極的に様々な組織・団体、地域住民と連携を図り、介護予防のみならず「まちづくり」という視点から企画や運営に関わり事業を進めることができた。さらに、まちづくり協議会福祉部会を中心に、福祉のまち推進センター、民生委員児童委員協議会、南区保健福祉課、南区第一地域包括支援センター、南区社会福祉協議会等の関係団体も含め、日々の目配り活動について現状や課題、関係機関と連携できることは何か等をテーマとしたワークショップを実施し、活発な意見交換・情報共有の場となった。

全体を通し、地域の皆様や関係機関の皆様のご理解、ご協力のもとに、介護予防センター事業が展開できたことに感謝し、今後もより一層の関係構築、事業連携を目指していきたい。

2. 事業運営状況

(1) 職員の配置状況

職 種	人 数	備 考
センター長	1名	兼任、常勤
ケースワーカー	1名	専任、常勤

(2) 年間重点目標について

① 担当地域において、介護予防センターの存在・役割、特に相談機関であることの周知を図っていく

介護予防センターや法人各事業のチラシを、介護予防教室・介護イベント等で配布した。さらに関係機関・団体等との関わりの中で介護予防センターの役割の周知を図り、実績として介護保険に関連する相談を多く受けることができた。次年度も引き続き周知活動を継続し、介護予防センターについての理解促進に努めていきたい。

② 事業参加者、地域関係者、関係機関等との関係形成に努める

各事業において、地域関係者、関係機関と連携を図りながら事業を実施し、事業参加者においても積極的なコミュニケーションを取り関係形成に努めた。引き続き、中・長期的な視点で信頼関係を形成し、地域活動の基盤を築いていきたい。

③ 転倒予防教室実施について

介護予防教室の自主運営化のための支援として、現在行っている介護予防教室の地域住民による積極的な教室運営の実施のための支援を行った。また、空白地域での自主運営での教室立ち上げ・支援を行うことを目的に、今後は、地域での介護予防の普及・啓発事業について、広く地域との関わりを持ちつつ必要に応じた支援により継続した運営と空白地域の活動支援を実施したい。

④ 関係機関、法人内部とも連携しながら事業を進める

主に南区保健福祉部、南区第一地域包括支援センターとの連携を図りながら事業を進めることができた。事業内容に応じ南区社会福祉協議会や札幌南老人福祉センター等とも連携を図った。法人内部については、居宅介護支援事業所、特別養護老人ホーム和幸園等との連携により各種事業を実施し、地域貢献や法人認知度向上に努めた。

⑤ 地域住民の介護予防に対する理解促進に努める

介護予防センター主催事業並びに地域組織・団体等との連携の中で、介護予防の必要性や取り組みについて実技や講話、会議等を行った。

【地域介護予防活動の支援状況】

機関・団体名	内 容	回 数
石山地区まちづくり協議会及び 石山福祉のまち推進センター	総会・役員会出席	2回
	福祉部会・福祉のまち推進センター運営委員会合同会議参加	12回
	福祉部会「生き生き健康教室とゲーム大会」共催	1回
	福祉部会「高齢者目配り活動意見交換会（地域ケア会議）」共催	1回
	福祉部会「石山地域学習会」共催	1回
	福祉部会「お楽しみゲーム大会」共催	1回
	福祉推進委員研修会共催	1回
	福まちふれあいの集い共催	1回
	食事とお楽しみゲーム大会共催	1回
石山コミュニティサロン「駅」	実施協力（地域交流・体操）	11回
青樹町内会	介護予防健康体操実施協力	9回
七宝会（老人クラブ）	ふまねっと実施協力	2回
芸術の森地区社会福祉協議会	もりの仲間さわやかクラブ共催（南老人福祉センター）	1回
	関係者打合せ・反省会	4回
真駒内駒岡・駒岡団地町内会	地区地域ケア会議（その後の取り組みとして）	3回
滝野町内会	健康体操・体力測定会実施協力	11回
（老ク）プラチナクラブ	介護予防教室（脳トレ）	1回
常盤団地町内会 スマイルクラブ	体力測定・健康測定	1回

⑥ 地域関係団体との連携を図り、地域での相談支援や事業実施を進める

相談については、昨年度同様に他相談機関、或いは居宅介護支援事業所等に引き継ぐことが多く、介護予防センターへの相談件数自体は決して多くないが、地域の方等から直接相談を受けるケースもある。相談内容は介護予防に関する問い合わせや相談が主だが、介護保険制度に関する問合せもあった。地域での相談支援は日頃からの関係形成が重要と捉え、次年度も良好な関係を構築していきたい。

⑦ 介護予防事業に関する知識・技術の向上に努め、事業実施に繋げる

法人内外の研修に参加し、担当地域での事業実施に結びつくものや活動の参考となるアイデアを得ることができ、実際に事業等で活用した。

<研修参加状況>

No.	開催日	会議名	回 数
1	毎月第3水曜日	南区地域包括支援センター及び介護予防センター定例会	12回
2	適時	南区介護予防センター連絡会議	11回
3	月1回（適時）	石山地区連絡会	10回
		芸術の森地区連絡会議	13回
4	5月29日	札幌市介護予防センター連絡会議	1回
5	3月7日	介護予防センター運営方針の運用に係る説明会及び研修会	1回
6	7月26日	石山地区地域ケア会議	各1回
	1月31日	芸術の森地区連絡会議	

(3) 法人の5つの視点に対する取り組み（該当項目のみ）

① 利用者視点

地域関係者をはじめとした地域住民と、積極的な意見交換、コミュニケーションをとり、関係形成、情報収集に努めた。また、相談件数は決して多くはないが、地域の方から直接相談を受けるケースもあり、地域住民と良好な関係を構築できていると考える。

② 財務視点

無駄を省き経費削減に努め、センターの運営に当たった。

③ 地域貢献の推進

担当地域での行事や町内会・老人クラブ等の集まりや転倒予防教室等の事業において、講話や介護予防教室等を実施し、介護予防の普及・啓発に努めた。また、随時、介護予防センターの存在、役割、さらには相談機関であることを周知した。

法人内部、石山地区福祉のまち推進センターと連携し開催した、「お茶の間懇談会」を今年度も開催することができ、地域との連携強化につながったと考える。

④ ガバナンス体制の強化

区連絡会議や地区連絡会議をはじめ、必要に応じて、区・地域包括支援センター等関係機関と情報交換を行い、目的の共有、人的・技術的な連携を取ることができた。また、実施事業の活動実績等報告書類や予防センター運営に関わる書類等の提出期日を守り、安定した運営を行うことができた。

(3) 事業実績

① 相談事業

<相談経路>

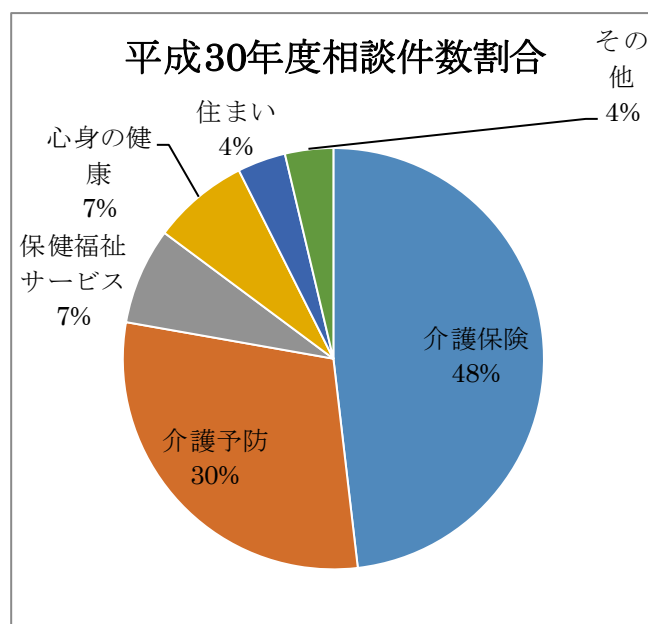
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2017年度	2018年度
電話	2件	4件	1件	2件	1件	1件	-	-	-	2件	3件	-	18件	16件
訪問	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0件	0件
面接	-	-	1件	1件	-	-	-	2件	-	1件	1件	2件	6件	8件
計	2件	4件	2件	3件	1件	1件	-	2件	-	3件	4件	2件	24件	24件

※「面接」は、「来所」「事業実施時」「その他」を包含する。

<相談種別・割合>

相談内容内訳	件数		2018年度割合
	2017年度	2018年度	
介護保険制度	17件	13件	48%
介護予防	4件	8件	30%
保健福祉サービス	0件	2件	7%
権利擁護	0件	0件	0%
消費者被害について	0件	0件	0%
認知症について	0件	0件	0%
高齢者虐待について	0件	0件	0%
心身の健康について	2件	2件	7%
住まいについて	1件	1件	4%
その他	1件	1件	4%
計	25件	27件	

(重複あり)



② 介護予防普及・啓発事業

<転倒予防教室予防教室の開催>

石山地区のうち石山会館は月2回、年24回、アクロスプラザ集会所は、毎週1回、年48回の教室を実施した。石山会館は、登録者は昨年より増加し、参加者の延べ人数、平均参加者数も共に上回った。アクロスプラザについても、登録者数はあまり変わらないが、参加者の延べ人数、平均参加者数の両方で前年度よりも微増している。芸術の森地区は、芸術の森会館で月2回、年24回の教室を実施した。こちらについては、参加者登録、参加者延べ人数、平均参加者数は昨年より減少となった。結果として、全会場合わせて参加者延べ人数は1,650人を超える参加者となった。

ア) 参加登録者状況

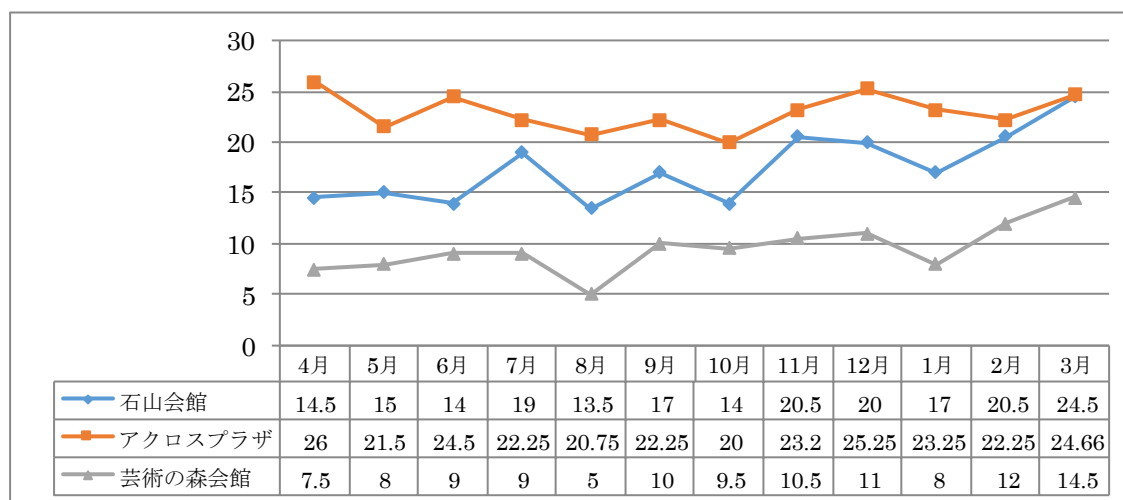
実施会場	登録者		2017年度比 (伸び率)
	2018.3.31	2019.3.31	
石山会館	26名	32名	123.07%
アクロスプラザ	49名	49名	100.0%
芸術の森会館	26名	29名	111.5%
計	101名	110名	108.9%

※登録者は当年度において1回以上教室に参加された方

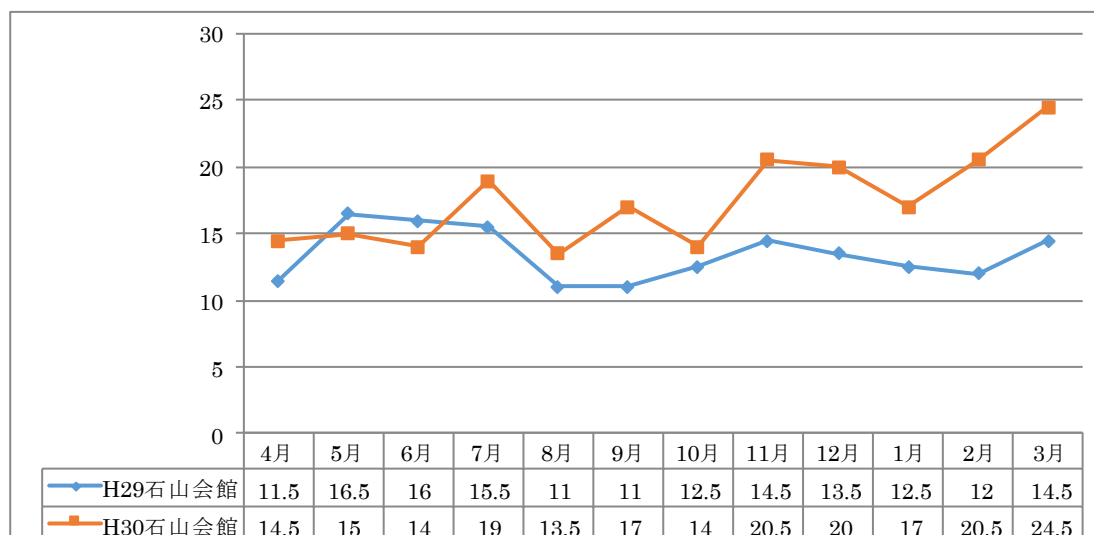
イ) 参加実施状況

実施会場	実施回数		参加者延べ人数		平均参加人数	
	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度
石山会館	24回	24回	326名	419名	13.58名	17.45名
アクロスプラザ	49回	48回	998名	1,012名	20.37名	21.08名
芸術の森会館	24回	24回	287名	228名	11.96名	9.5名
計	97回	96回	1,611名	1,659名	16.61名	17.28名

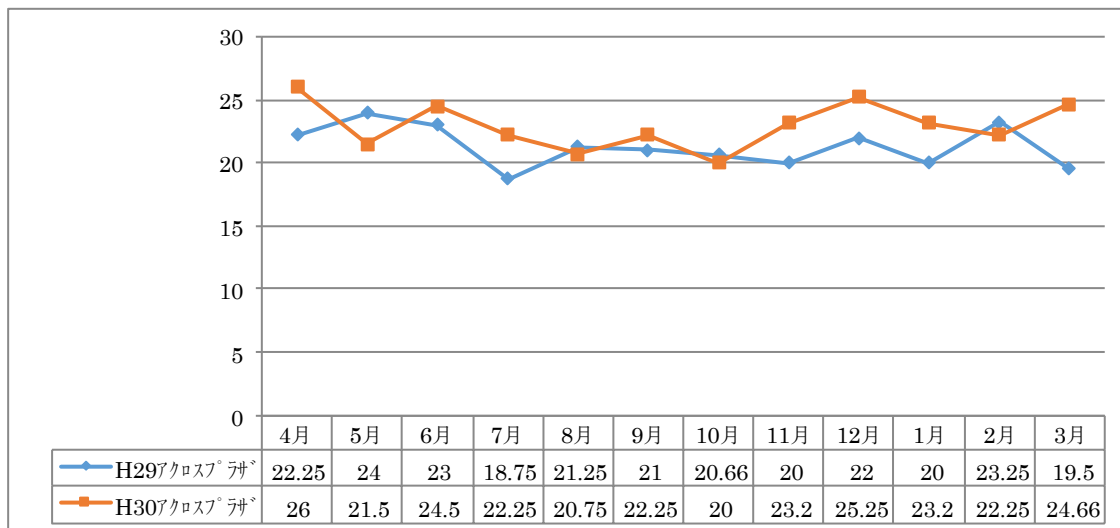
ウ) 2018年度転倒予防教室月別平均参加者推移



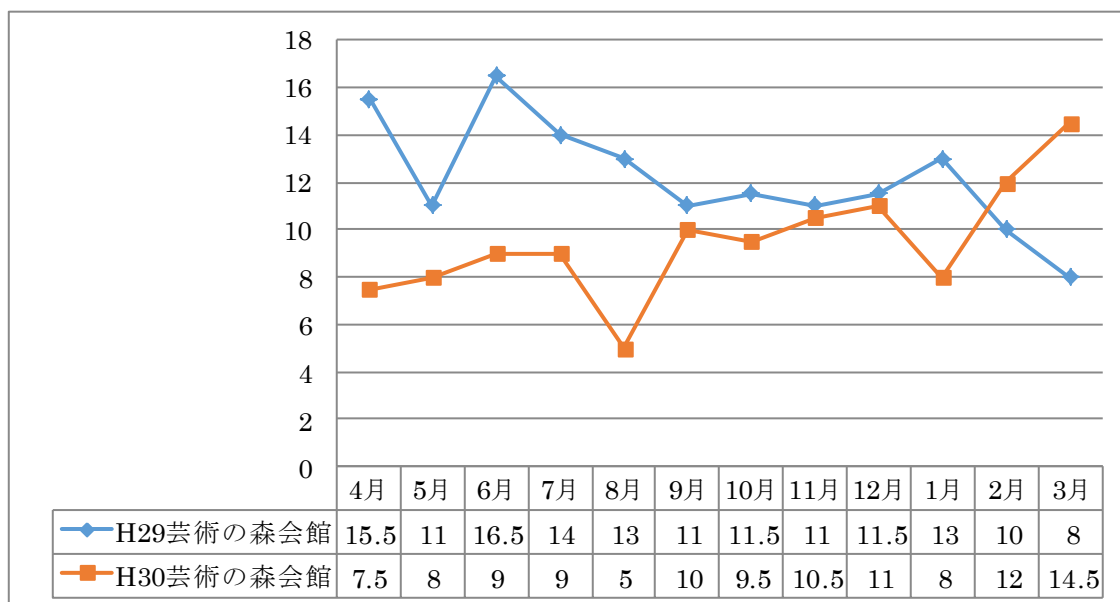
エ) 2018年度転倒予防教室(石山会館)参加者月別平均推移(2017年度同月比)



オ) 2018年度転倒予防教室（アクロスプラザ）参加者月別平均推移（2017年度同月比）



カ) 2018年度転倒予防教室（芸術の森会館）参加者月別推移（2017年度同月比）



<認知症予防教室（森の寺子屋）の開催>

予防センターは、認知症予防に特化した脳トレや体操、レクリエーション等、軽い運動と脳のトレーニングを組み合わせた介護予防教室を実施。2018年度は、第1水曜日を担当の日とし、月1回、年10回実施した。次年度からは、「サロン森の寺子屋」として完全自主運営で実施を予定している。予防センターとしては、今後も介護予防活動が継続して行えるように年2～3程度の支援を行う予定である。

実施会場	実施回数		参加者延べ人数		参加平均人数	
	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度
南老人福祉センター	10回	10回	75名	62名	7.50名	6.2名

